

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## Development of information and publishing systems for a Japanese linguistics bibliographic database

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊谷, 康雄, KUMAGAI, Yasuo メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001365">https://doi.org/10.15084/00001365</a>

文献情報のデータベース化と  
目録作成のシステム化

熊 谷 康 雄

要旨：1989年度より、国語年鑑と図書館のシステム化を目的とした作業を開始した。このシステムは研究所における文献情報の収集、整理、2次情報の作成に関しての計算機によるシステム化を目指したものである。それまでは手作業で行われていた作業を機械化し、作業の効率化と機械可読データの蓄積によるデータの有効利用によって、研究所における継続的な文献データベース作成のためのシステムの基礎作りを目指したものである。1994年度までに、国語年鑑に関する機械化を目指した範囲の全体をおおうことができた。この報告では、これまでの経過をまとめつつ、文献情報のデータベース化と目録作成のシステム化のために行った作業のうち、特にこの国語年鑑の機械化に関わる部分について報告した。システムはパーソナルコンピュータ上に構築した。

キーワード：文献データベース、国語学、文献索引、電子出版、国語年鑑

Abstract : This paper reports on the development of the information system for *Kokugo Nenkan* (*Japanese Language Yearbook*), the annual bibliography which covers all fields of Japanese linguistics, published by the National Language Research Institute since 1953. In this paper, we describe the data entry system, the structure of the database and the processing procedure employed for publication.

We started this project in 1989, developing an information system for compiling a comprehensive bibliographic database of the study of Japanese language, and for publishing the bibliography by processing the database. The system aims to replace the process of manually editing *Kokugo Nenkan* by a computer-aided, database-oriented system, and to make the results available on electronic media. At the same time, we started another project to develop the library information system. It was intended that the two projects, which are mutually autonomous but closely related, would form the basis of the NLRI bibliographic information system.

Key words : bibliographic database, Japanese linguistics, bibliographic index, electronic publishing, *Kokugo Nenkan*, *Japanese Language Yearbook*

## 1. はじめに

1989年度より、研究所における文献情報の収集、整理、2次情報の作成の計算機によるシステム化を目指し、国語年鑑と図書館の機械化のための作業を開始した。作業の開始以来、国語年鑑や図書館の担当者と連携しつつ、筆者は主にシステムサイドから、全体のシステム化の計画・設計やシステムの作成と国語年鑑の出版に必要なデータ処理関係の実作業の両方を行ってきた。研究所における継続的な文献データベース作成のためのシステム的な基礎作りを目指したものである。1994年度までに、国語年鑑に関しては、機械化の進捗が文献目録の全体をカバーするところまで来た。この報告では、これまでの経過をまとめつつ、文献情報のデータベース化と目録作成のシステム化のために行った作業から、この国語年鑑の機械化に関わる部分について、システム化の概要の報告を行うことにする。

なお、図書館に関しても、1993年度に学術情報ネットワークに接続し、ネットワークを利用した図書館の蔵書の遡及入力を開始し、今年度(1995年度)中には昨年度に図書館に導入したワークステーション上で図書館情報システムが稼働を開始し、ネットワークに接続したパソコン等からの蔵書の検索などが可能になるところである。

## 2. システム化の方針

国立国語研究所では1953年以来、毎年、1年間に発行された国語学関係の刊行図書、雑誌掲載論文などの文献情報を集めた「国語年鑑」の編集・刊行を行なっており、国語学関係の研究情報の情報源となっている。国語年鑑は国立国語研究所の図書館で収集した図書雑誌、および、各種の目録から集めた情報を整理・編集し、分野別に刊行図書および雑誌論文を収めている。一方、1989年には、国語学会と国立国語研究所の共同事業として、1954年版から1985年版までの「国語年鑑」所載の雑誌論文をデータベース化したフロッピー版の「日本語研究文献目録 雑誌編」(約8万4千件)が作成、出版されている<sup>(1)</sup>。また、刊行図書についても同じ年に「国語学研究文献総合目録」

(約2万3千件)が発行され<sup>(2)</sup>、データは機械可読になっている。いずれも、「国語年鑑」をベースにして作成されたものである。

これらの状況も踏まえ、それまで手作業が主体であった業務の機械化を進め、各業務の計算機による補助、データの共有、機械可読データの蓄積による情報の多面的な活用を図ることを目的として、1989年度よりシステム作りを開始した。国語学研究文献情報の収集、そのデータベース化と利用までの一連の流れをシステム化することを目指したものである。(図1参照)

これは国語年鑑のそれまでの手作業による文献目録の作成に代わって、文献データベースの形成という観点を中心におき、データベースの作成とそのデータベースからの出力形態のひとつとしての文献目録・国語年鑑の出版というプロセスへの移行を行うというものである。

システム化を進めるに当たっては、以下のような点を考慮した。

(1) 国語年鑑の出版自体は中断せず行う。したがって、その毎年の出版のための実作業の中でシステムの作成とシステムへの移行を順次範囲を拡大しつつ行うことにする。

(2) 文献データベースの形成という観点から必要な情報は年鑑の出版上の体裁の上に見えないものでもデータベースとして蓄積する。すなわち、データベースが中心にあり、そこから必要な文献や項目を取り出して年鑑ができるという形になる。

(3) 出版物として、本としての体裁上の品質もできる限り維持したかたちでのシステム作りを行う。いかにもコンピュータのアウトプットというような体裁にはしない。

(4) 国語年鑑の本作りの内容をできるだけ継承する。

(5) 国語年鑑は1986年版より電算写植による出版になっていた。そこで、この電算写植へ接続し出版するシステムを作成することにした。(電算写植の出力ほどの印字の品質を得る装置を研究所に備えることはできないので、最終的な出力は印刷会社の出力を利用する形にした。)

(6) システム化は本の作成担当者の意見を十分に聞きながら進める。本の

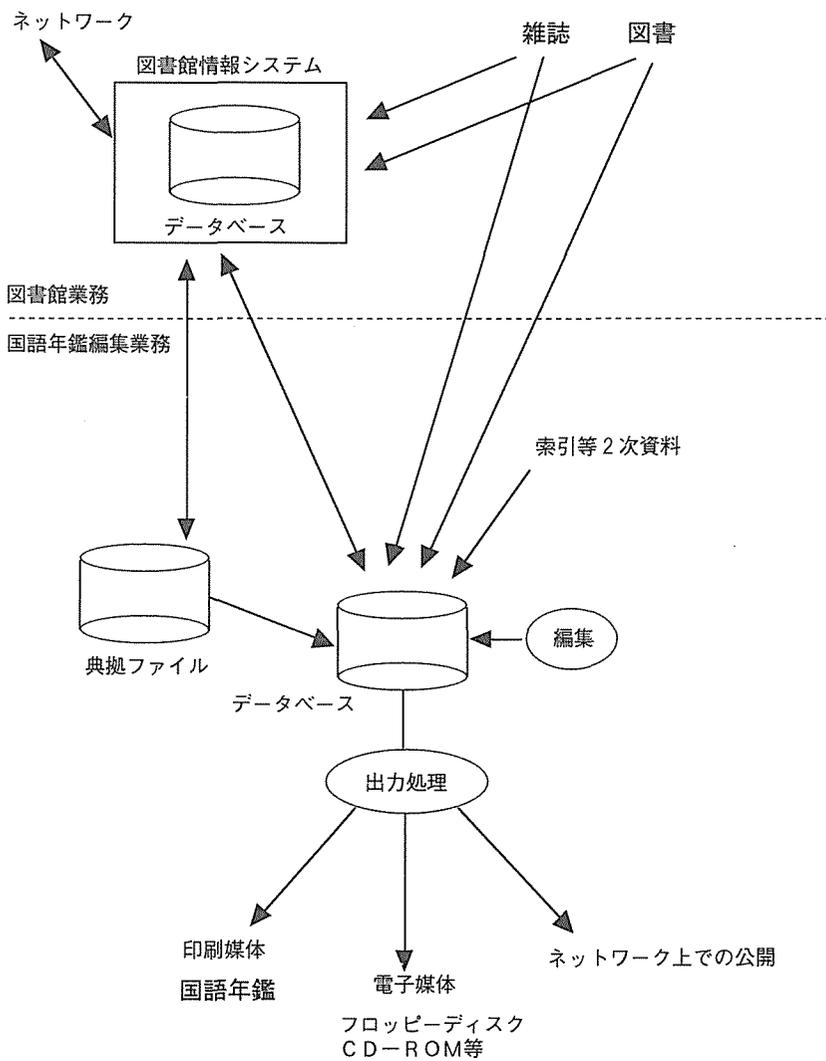


図1 文献情報の全体システムの流れ

編集担当者や出版社、印刷会社と実際のデータ作成、出版という作業を進めていく中でシステムへのフィードバックを行ないつつ、システムの構築を行う。

(7) 本作りに携わって人間の持っている本に対する考え方を尊重しつつシステム化を行なう。システム作りの側からは負担になることもあるが、必要な側面であると考えた。

(8) パソコン等の機器の導入教育を進めながらシステム化を行う。当時、文献の担当者はパソコンはほとんど未経験だったので、パソコンを利用できるようにするための手助けをしながらシステム化を進めていくことにした。

(9) いきなりコンピュータを持ち込んで、そのやり方を押しつけるということをしなない。すでに行われていた編集の過程の中でできるだけうまくはまるような形で順次コンピュータを道具として入れていき、編集の過程の中でコンピュータをなじませながら、次第にその範囲を拡大していくという導入方針で行う。その中で、コンピュータ化に伴って、より多くの情報をデータとして蓄積する。

(10) 出版物としての表だった変化はあまりないが、それを出力するシステムの方は、本の利用者がほとんど気のつかない内にすっかり入れ替えてしまう。変わったことに気がつかれないほど、うまくいっているというような形を考えた。

(11) コンピュータを押しつけるのではなく、コンピュータを導入することによって、可能性や自由度を拡大するという方向を目指した。

### 3. システム化の経過

作業ステップとして以下のような手順を設定して、作業を開始した。

- a. 図書館および国語年鑑編集担当者からの情報の収集
- b. パソコンの導入
- c. イメージをつかむためのプロトタイプ作成と導入
- d. 担当者からのフィードバック

- e. データの項目の洗い出し
- f. 作業ステップ／データ・フローの検討，作業用インターフェースの検討（情報の流れとももの流れの整理）
- g. システム分析／データベースの設計／試作
- h. 計算機を導入してからの作業の流れの検討
- i. テストと改良の繰返し

データ処理に関しては以下のような経過を経て，順次，データ処理の範囲を全体に広げてきた。全体のシステム化は典拠ファイルを整備し，受賞一覧，各学会・関係諸団体一覧，採録雑誌発行所一覧，採録図書発行所一覧など比較的簡単な構造のものから始め，雑誌論文データ入力，雑誌論文データ処理，刊行図書データ入力，刊行図書データ処理の順で行った。なお，国語年鑑の編集実務の担当者は，田原圭子（1991年度まで），伊藤菊子（全期間），伊藤雅光（1991年度より）であり，筆者は担当者と連絡を取りながら，システムの構築とデータ処理を行った。全体の打ち合わせには，江川清と(株)秀英出版および(株)デンプロも加わった。なお，電算写植による印刷は(株)デンプロが行なった。システムが著者索引の全てを出力できるようになるまでは，手作業の索引の作成には秀英出版が協力した。

以下に，国語年鑑のシステム化の過程を年度ごとに簡単に記しておく。

[1989年度] 電算写植化されているデータの取り扱い，および，機械可読になっているデータの利用について検討した。電算写植化されたデータの処理の一環として，国語年鑑の国語関係者名簿中の元号表記を電算写植となっていたデータを処理して，西暦表記に変換した。

[1990年度] 典拠ファイルを整備するため(1)著者の読み仮名辞書，(2)継続受入雑誌リスト（和雑誌，洋雑誌）(3)国語年鑑の採録図書雑誌発行所リストについて，パソコン上のデータベースによる利用を可能にするための作業を行った。

[1991 年度] 全体のシステムの部分ごとに順次システムに組込むこととし、1991 年度は(1)受賞一覧、(2)各学会・関係諸団体一覧、(3)採録雑誌発行所一覧、(4)採録図書発行所一覧についてデータベース化とデータベースからの出力処理を開始した。

[1992 年度] 雑誌論文の全体を処理し、データベース化とデータベースからの出力処理を開始した。著者索引の雑誌論文の部分のデータ処理を開始した。

[1993 年度] 刊行図書の一部を試験的に処理、データベースからの出力処理を開始した。

[1994 年度] 刊行図書の全体を処理し、データベース化とデータベースからの出力処理を開始した。著者索引の全体の機械処理を開始した。この段階で、年鑑の対象部分の全体を機械処理できるようになる。

[1995 年度] 1994 年度のシステムに一部変更を加えながら、基本的には同じシステムによる処理を継続した。

## 4 データ入力システムのシステム化

### 4.1 典拠ファイルの作成

システム作成の第一段階として、データ入力の整合性の確保と入力の効率化のために典拠ファイルを作成した。データ入力の際に該当する項目については典拠ファイルの情報を引いてデータを入力する。(図 2、図 3 参照、これらの典拠ファイルは表引きとなっている。YOMI.TBL がよみ仮名辞書、PBL LSBK-T.TBL が発行所ファイル、MAGA-PK.TBL が雑誌名ファイルである。)

図書館や国語年鑑編集用のファイルをもとに入力システムの典拠ファイル

を作成し、さらに入力システムとして必要な情報の追加や修正を行い、典拠ファイルを新規に作成した。典拠ファイルには、著者のよみがな、雑誌名、発行所のファイルなどがある。以下のようなファイルに対する作業を行ない、これをもとに典拠ファイルを作成した。

#### (1) 著者名のよみがな辞書

作業開始当時使用していた IBM フォーマットのファイルを MS-DOS に移行し、データベースに乗せた上で、姓と名の区切りを入れるなどしてデータの形式を整え、項目を追加し、情報の追加修正を行った。このファイルは、これ以降、継続的に国語年鑑の編集担当により内容についての追加訂正が行われている。現在は約 28,000 件のデータがある。

#### (2) 継続受入雑誌ファイル

図書館が整えていたファイルをもとに整備した。IBM フォーマットのファイルを MS-DOS へ移行し、図書館がローマ字でつけてあったよみをもとに仮名のよみを追加し、雑誌名のよみを全部ふるなどの作業をした。

#### (3) 採録雑誌発行所一覧のデータ

国語年鑑の採録雑誌一覧の電算写植データを変換、加工した上で、機械的に処理できなかったデータの不揃いを人手で修正し、さらに項目の追加を行った。89年版、90年版のそれぞれについて、データを作成し、編集者と発行所とを別ける処理、発行所の所在地が複数登録されている場合の処置などを行った。さらに、図書館で認定している雑誌の誌名と年鑑で採用している雑誌の誌名とを突き合わせるため、図書館の継続受け入れ雑誌のファイル上のレコード番号を採録雑誌発行所のデータに付与し、この番号で突き合わせを行い、図書館の誌名と年鑑の誌名とを比較して、国語年鑑で認定している雑誌名と図書館で認定している雑誌名との比較ができるようにした（年鑑編集担当者がチェック）。

#### (4) 洋雑誌ファイル

図書館で作成した洋雑誌所蔵ファイルを MS-DOS に変換し、利用可能な形にした。

## 4.2 データベースの項目

入力システムの項目は国語年鑑上に盛られている情報，国語年鑑の編集の過程で必要になってくる情報，文献データベースとして記録しておきたい情報等と，データベースから国語年鑑の電算写植用の出力を作成するときに必要になってくる情報などからなっている。

刊行図書のデータ項目を図2に，雑誌論文のデータ項目を図3に示す。それぞれの図には，典拠ファイルとの関係も併せて示しておく。図中では表引きとして示されている。YOMI.TBLがよみ仮名辞書，PBLSBK-T.TBLが発行所ファイル，MAGA-PK.TBLが雑誌名ファイルである。

なお，入力には管理工学研究所のデータベースソフトである桐を利用した。

## 5. 国語年鑑の文書の構造

このシステムでは国語年鑑の印刷物としての本の品質を維持することを目標のひとつとした。したがって，データベースの項目がそのまま機械的にプリントされるようなシステムでは目標を達成できない。以下の作業が必要となる。

(1)国語年鑑の本としての印刷のレイアウトの上に置かれている情報を解析し，レイアウトとデータ項目との対応の規則を取り出す。すなわち，文書の論理的な構造と本のレイアウト上の情報との対応を解析する。

(2)国語年鑑では利用のしやすさや，本としての体裁上の配慮，収録本数と本の厚みとの関係などから，一連の続きものとして処理できるような内容のものをまとめて表示するやり方を取ってきていた。これもこの計画のシステムとしてはサポートすることにした。したがって，このまとめ方や省略の仕方についての解析をする。

国語年鑑の体裁上はデータフィールドを細かく分けてはいないで，比較的大きくくりで凡例が示されている。また，この体裁上に示されたデータの構造が年鑑のレイアウトの単位としても扱える。一方，編集用のデータベースは細かくデータのフィールドを定めている。この両者の間を繋ぐ必要がある。

る。

また、この年鑑の体裁上のデータ構造の単位がレイアウトの制御の単位ともなっていることから、編集用のデータベースの項目を年鑑の体裁上の項目にまとめ上げて対応させ、この体裁上の項目を単位として印刷時の文書のレイアウトの制御を行うことができる。

国語年鑑の情報を解析し、(1)本の上での配列と文書の論理的構造との関係、(2)データベースの項目・構造と文書上の論理的構造との対応を調べ、規則化する。印刷のフォント、付き物、配置などのうち、構造的位置によって決まるものは構造によって規定する。不規則に現れるもので構造的に規則化することのできないものは個別に規定するという方式を取る。

なお、我々の仕事の内容から考えて注目されるものとして、SGML (Standard Generalized Markup Language)<sup>(3)</sup>がある (SGML と TeX との接続ということもある)。この計画の初期の段階では SGML はまだ知られはじめたころであり、環境もこれからであった。また、印刷会社とのデータのやりとりに関しても、相手方の対応の可能性に関する考慮も必要であった。したがって、SGML そのものを採用して、計画を進めるということはしなかったが、データの論理的な構造に関する情報と文書の構造的な情報を取り扱うという点から我々のデータを後に活用する際の候補として注目しておくに留めた。

以下では、全体のシステムのうち、主に、このデータベースと本としての国語年鑑の出版とを結びつけるためにとった方式の部分について述べることにする。プログラムや作業全体のフローについては、簡単に触れるに留める。又、文献の分類の処理などもここでは触れなかった。

## 刊行図書データベース 項目

(注)

項目名のあとにTがついているものは、それが図書についての情報であることを示す。

項目名のあとにRがついているものは、それがその図書に収録されている論文についての情報であることを示す。

凡例

1. 表引き：他のデータベースファイルを参照してデータを引いてくる。  
表引き{,"参照するデータベースファイル名",...,[参照する項目名]}  
表引き{ [マッチングする値を持つ項目], "参照するデータベースファイル名"  
,"索引名", [マッチングを取る相手の項目], [参照する項目名]}
2. 集合：集合に規定されている値の中から選ぶ。  
集合 {1:値1, 2:値2, ...}
3. ふりがな：ふりがなをふる項目のかな入力時の値を持ってくる  
ふりがな, [ふりがなをふる項目]

- 1:行番号：
- 2:目次マーク：集合(1:C)
- 3:書名：
- 4:書名巻次：
- 5:書名よみ：ふりがな, [書名]
- 6:書名巻次よみ：数値
- 7:副書名：
- 8:副書名巻次：
- 9:副書名よみ：ふりがな, [副書名]
- 10:副書名巻次よみ：数値
- 11:叢書名：
- 12:叢書名巻次：
- 13:叢書名巻次よみ：数値
- 14:叢書名よみ：ふりがな, [叢書名]
- 15:副叢書名：
- 16:副叢書名巻次：
- 17:副叢書名よみ：ふりがな, [副叢書名]
- 18:副叢書名巻次よみ：数値
- 19:外国語書名：
- 20:版次：
- 21:原著者名：

図 2 - 1 刊行図書データベース 項目

- 22: 著者名 :
- 23: 著者名よみ : 表引き ([著者名], "n:YAUTH3YYOMI. TBL", 漢字, [漢字], [よみ])
- 24: よみ記号 : 表引き ([著者名], "n:YAUTH3YYOMI. TBL", 漢字, [漢字], [記号])
- 25: よみ新規登録 : 表引き ([よみ\_sin. TBL"... [登録記号])
- 26: よみ全国書誌 :
- 27: 著者名よみ調査 : 表引き ([yomityou. TBL"... [よみ調査])
- 28: 著者名ローマ字 :
- 29: 著者名別表記 :
- 30: 著者名注記 : 表引き ([tyoty. TBL"... [著者名注記])
- 31: 出版地(1) :
- 32: 出版地(2) :
- 33: 出版者 :
- 34: 出版者よみ : "ふりがな", "[出版者]"
- 35: 発行所検索 : 文字数 (= <3)
- 36: 発行所 : 表引き ([発行所検索], "PBLSBK-T. TBL", 発行所検索, [発行所検索], [発行所名])
- 37: 発行所コード : 表引き ([発行所], "PBLSBK-T. TBL", 発行所名, [発行所名], [発行所コード])
- 38: 発行所よみ : 表引き ([発行所コード], "PBLSBK-T. TBL", 発行所コード, [発行所コード], [よみ])
- 39: 発行所よみ記号 : 表引き ([発行所コード], "PBLSBK-T. TBL", 発行所コード, [発行所コード], [記号])
- 40: 発行所よみ新規登録 : 集合 {1: N}
- 41: 発行所外国語名 :
- 42: 発売所検索 : 文字数 (= <3)
- 43: 発売所 : 表引き ([発売所検索], "PBLSBK-T. TBL", 発行所検索, [発行所検索], [発行所名])
- 44: 発売所コード : 表引き ([発売所], "PBLSBK-T. TBL", 発行所名, [発行所名], [発行所コード])
- 45: 発売所よみ : 表引き ([発売所コード], "PBLSBK-T. TBL", 発行所コード, [発行所コード], [よみ])
- 46: 発売所よみ記号 : 表引き ([発売所コード], "PBLSBK-T. TBL", 発行所コード, [発行所コード], [記号])
- 47: 発売所よみ新規登録 : 集合 {1: N}
- 48: 発行年 :
- 49: 発行月 :
- 50: 大きさ :
- 51: 判型 : 表引き ([hangata. TBL"... [判型])
- 52: 前付けページ :
- 53: 本文ページ :
- 54: 後付けページ :
- 55: 定価 :
- 56: 類別T : 表引き ([ruibetut. TBL"... [類別T])
- 57: 形態T : 表引き ([keitait. TBL"... [形態T])
- 58: 使用言語T : 表引き ([RES\_LANG. TBL"... [言語名略称])
- 59: 解説 :
- 60: 目次題目 :
- 61: 目次題目よみ :

図 2 - 2 刊行図書データベース 項目 (続)

- 62:筆者名:
- 63:筆者名よみ:表引き〔筆者名〕,"N:YAUTH3YIYOMI.TBL"
- 64:筆者名よみ記号:表引き〔筆者名〕,"N:YAUTH3YIYOMI.TBL",漢字,〔漢字〕,〔記号〕
- 65:筆者名よみ新規登録:表引き〔,"yomi\_sin.TBL",,,〔登録記号〕〕
- 66:筆者名ローマ字表記:
- 67:筆者名別表記:
- 68:筆者名よみ調査:表引き〔,"yomityou.TBL",,,〔よみ調査〕〕
- 69:類別R:集合〔1:論文,2:索引,3:記事・資料,4:講座・解説,5:書評,6:随想,7:座談,8:その他〕
- 70:使用言語R:表引き〔,"RES\_LANG.TBL",,,〔言語名略称〕〕
- 71:分類コードR:
- 72:キーワードR:
- 73:和文要旨R:集合〔1:有,2:無〕
- 74:外国語要旨R:表引き〔,"RES\_LANG.TBL",,,〔言語名略称〕〕
- 75:採否R:集合〔1:採,2:否,3:保留〕
- 76:分類コードT:
- 77:キーワードT:
- 78:図書館分類記号:
- 79:ISBN:
- 80:国会図書館分類記号:
- 81:ND C分類記号:
- 82:全国書誌件名:
- 83:全国書誌no.:
- 84:国会図書館請求記号:
- 85:備考:
- 86:採否T:集合〔1:採,2:否,3:保留〕
- 87:掲載年版:表引き〔,"nenban.TBL",,,〔年〕〕
- 88:既採文献メモ:
- 89:情報源〔調査済〕:表引き〔,"zyoho1.TBL",,,〔情報源〔調査済〕〕〕
- 90:情報源〔未調査〕:表引き〔,"zyoho2.TBL",,,〔情報源〔未調査〕〕〕
- 91:受入年月日:
- 92:採録年月日〔文〕:
- 93:入力日:表引き〔,"NAMES\_AR.TBL",,,〔入力者名〕〕
- 94:更新メモ:表引き〔,"NAMES\_AR.TBL",,,〔入力者名〕〕
- 95:確認:表引き〔,"kakuni.TBL",,,〔確認〕〕
- 96:確認者:表引き〔,"NAMES\_AR.TBL",,,〔入力者名〕〕
- 97:情報メモ:
- 98:書誌メモ:
- 99:内容メモ:

図 2 - 3 刊行図書データベース 項目 (続)

## 雑誌論文データベース 項目

### 凡例

1. 表引き：他のデータベースファイルを参照してデータを引いてくる。  
表引き { "参照するデータベースファイル名" , , , [参照する項目名] }  
表引き [ [マッチングする値を持つ項目] , "参照するデータベースファイル名"  
 , 索引名, [マッチングを取る相手の項目] , [参照する項目名] }
2. 集合：集合に規定されている値の中から選ぶ。  
集合 { 1:値1, 2:値2, . . . . }
3. ふりがな：ふりがなをふる項目のかな入力時の値を持ってくる  
ふりがな, [ふりがなをふる項目]

- 1:行番号：
- 2:標題：
- 3:標題よみ：ふりがな, [標題]
- 4:副題：
- 5:外国語表題：
- 6:外国語副題：
- 7:使用言語：表引き { "RBS\_LANG. TBL" , , , [言語名略称] }
- 8:特集・連載名：
- 9:中題：
- 10:欄名：
- 11:主題の内容注記：
- 12:筆者名：
- 13:筆者名よみ：表引き { [筆者名], "f:YAUTHYOMI. TBL", 漢字, [漢字], [よみ] }
- 14:よみ記号：表引き { [筆者名], "f:YAUTHYOMI. TBL", 漢字, [漢字], [記号] }
- 15:よみ新規登録：表引き { "yomi\_sin. TBL" , , , [登録記号] }
- 16:筆者名ローマ字：
- 17:筆者名よみ調査：表引き { "yomityou. TBL" , , , [よみ調査] }
- 18:筆者名注記：
- 19:誌名検索：文字数 [=<3]
- 20:誌名：表引き { [誌名検索], "MAGA-PK. TBL", 雑誌名検索, [雑誌名検索], [雑誌名] }
- 21:雑誌コード：表引き { [誌名], "MAGA-PK. TBL", 雑誌名, [雑誌名], [雑誌コード] }
- 22:誌名よみ：表引き { [雑誌コード], "MAGA-PK. TBL", 雑誌コード, [雑誌コード], [雑誌名かな] }
- 23:外国語誌名：表引き { [雑誌コード], "MAGA-PK. TBL", 雑誌コード, [雑誌コード], [欧文誌名] }
- 24:巻：
- 25:号：

図 3 - 1 雑誌論文データベース 項目

- 26:通巻:
- 27:編者:表引き([雑誌コード], "MAGA-PK. TBL", 雑誌コード, [雑誌コード], [編者])
- 28:発行所コード:
- 29:発行所:表引き([雑誌コード], "MAGA-PK. TBL", 雑誌コード, [雑誌コード], [発行所])
- 30:発行年:
- 31:発行月:
- 32:所在ページ
- 33:ページ数
- 34:類別:集合 {1:論文, 2:索引, 3:記事・資料, 4:講座・解説, 5:書評, 6:随想, 7:座談, 8:その他}
- 35:分野:
- 36:キーワード:
- 37:和文要旨:集合 {1:有, 2:無}
- 38:外国語要旨:表引き(, "RES\_LANG. TBL", ..., [言語名略称])
- 39:分類コード:
- 40:備考:
- 41:内容メモ:
- 42:掲載年版:表引き(, "nenban. TBL", ..., [年])
- 43:掲載年版追補:
- 44:情報源:表引き(, "INFSRC. TBL", ..., [情報源名])
- 45:抜刷:表引き(, "yes\_no. TBL", ..., [yes\_no])
- 46:採録年月日(文):
- 47:採録:集合 {1:採, 2:否, 3:保留}
- 48:大きさ:集合 {1:B6, 2:A5, 3:B5, 4:A4, 5:規格外}
- 49:総目次・索引:
- 50:入力者:表引き(, "NAMES\_AR. TBL", ..., [入力者名])
- 51:入力日:計算, #DATE
- 52:更新日:計算, #DATE
- 53:確認:表引き(, "kakuni. TBL", ..., [確認])
- 54:筆者名よみ2:計算, #部分列( #文字置換([筆者名よみ], "1-", ""), 1, 10)
- 55:使用言語2:整数, 計算, #対応番号("英, 独, 仏, 西, 露, 中", [使用言語])
- 56:分類コード2:整数, 計算, #対応番号("A, B, C, D, E, F, G, T, H, I, J, K, L, M, N, O, P, Q, S", #部分列([分類コード], 1, 1))
- 57:分類コード3:計算, #部分列( [分類コード] .1, #文字位置( [分類コード] , ";")-1)
- 58:発行月2:

図3-2 雑誌論文データベース 項目(続)

## 5.1 文書構造の解析による複数レコードのまとめ方の規則

文献データベースとして、文献データの単位としてのレコードに持たせる情報と、本としての国語年鑑のページ上に表現する場合に文献の単位に持たせる情報との間には、相異がある。手書き原稿による出版から文献データベースからの出力としての出版というプロセスへの移行を計画したときに、文献データベースではデータベースとしての記録の単位を取るという考えを通し単純な構造のデータベースとし、国語年鑑として印刷したときに集約した表現を必要とするようなところでは、データベース上のデータを出力時の処理でまとめて国語年鑑用のデータのためのレコードとすることによって、両者の間を接続することにした。(図5-3を参照)

以下では処理の規則や構造の表示を、書き替え規則的な形式で示す。

変換先のデータのフィールド別に、元のデータベースのフィールドと変換先のフィールド内のデータとの対応関係を書き換え規則的な形式で示す。この表記の仕方は同一レコード上の場合のみでなく、複数のレコードを一つのレコードにまとめる処理の場合も使用している。

【】で囲まれたものはデータベースの項目に対応する。【】の中で【項目(条件)】のように記載されたところの丸ガッコは、その項目の値が丸ガッコの条件を満たす必要があるということを表す。項目名についたカッコ( )はそれがオプションであることを表す。項目1/項目2 という形は 項目1あるいは項目2のいずれか一方を選択することを表す。“”のダブルクォートで括られた表現は、括られた表現がそのままデータとして出力されることを表す。

### 5.1.1 刊行図書

国語年鑑に掲載される刊行図書の記載事項のパターンを検討した結果、情報を乗せる方式として、以下のようなパターンを用意することにした。なお、すべての場合を尽くすようなパターンの探し方はせず、変則的、例外的事例には個別の場合として記述できるよう後述の(2)のような枠を作っておき、

その中で対応するようにした。これは時間的な制約と効果との関係を考慮したためである。

(1) 一括の仕方が規則的な処理に馴染むもの。

(a) Cマーク

論文集のように、複数の筆者の論文が集まって構成されているようなものは、データとしては論文ごとに独立したレコードを持たせてあり、文献データベースとして利用するときの便を考えたデータベースの構成にした。一方、国語年鑑としての掲載の仕方は、図書の目次としてまとめて表示するように一括する処理をして出力用データのレコードとする処理を行う。このようなものはCマークと呼んで、このマーキングをデータベース上で示すことにした。この処理は目次の項目の中に各論文の情報を追いついでいく処理をするものである。

刊行図書の凡例の構造は次の通りである。

文献→ 文献番号+書名欄+著編者名+発行所

          +年月+判+ページ数+ (定価)+ (解説)+ (目次)

同一文献に対して以下の規則で目次に筆者ごとのレコードの情報を追いついでいく。

目次→ 目次項目+ ([半角スペース]+目次)

・和文形式の論文の場合

目次項目→ 【目次題目】+ “【 ( )”+【筆者名】+ “【 ) 】”

・欧文論文の場合

目次項目→ 【筆者名】+ “:”+【目次題目】

(b) 一括

複数の文献レコードをひとつにまとめる処理をする。処理内容の規則は以下の通り。書名、叢書名、発行年が同一のものに関して、データベース上に一括のマーキングがされていれば、以下の規則に従った処理を行い、1レコードにまとめる。

文献→ 書名+書名巻次欄+副書名欄+副書名巻次欄

+叢書名+叢書名巻次欄+発行年+発行月欄+定価欄

書名→ 【書名】

書名巻次欄→ 【書名巻次】+ (“,”+書名巻次欄)

副書名欄→ 【副書名欄】+ (“,”+副書名欄)

副書名巻次欄→ 【副書名巻次欄】+ (“,”+副書名巻次欄)

叢書名→ 【叢書名】

叢書名巻次欄→ 【叢書名巻次】+ (“,”+叢書名巻次欄)

発行年→ 【発行年】

発行月欄→ 【発行月】+ (“,”+発行月欄)

定価欄→ 【定価】+ (“,”+定価欄)

(2) 一括の仕方が規則的な処理に馴染まないもの。

(a)上記の規則的な処理に持ち込むのが難しいパターンの場合、年鑑に出したい形式にまとめた形でのレコードを用意し、これを親カードと称する。データベース上には、これにまとめる前の個々のデータを子カードと称してデータベース用のデータとして同時に持たせるかたちにしてある。この場合は出力の処理としては親カードのレコードだけを年鑑用には出力し、子カードのデータはスキップする。

(b)目次を持つもので、目次をばらした単位のデータをCマークのデータとして持っているが、上述の(1)の(a)の形に乗せることのできないものはデータベースとしてはCマークのレコードを生かすが、年鑑の出力としては上の親カードと同じ考え方で親カードのレコードを作成し、そこに出力用に整えたデータを入れておき、年鑑用データの出力用の処理ではCマークのレコードをスキップするという処理をする。

### 5.1.2 雑誌論文

雑誌論文の場合も、連載ものや、特集ものなど、編集上の判断によって一括した表現で年鑑に掲載している。データベース上ではひとつひとつの論文が独立したレコードになっている。したがって、データベースのデータから

年鑑用のデータを出力する際にレコードをまとめる処理として行うようにしてある。

この年鑑の編集上一括するデータについては、編集のときにデータベース上でマーキングを行う。このマーキングは編集上の判断によって行われており、機械的に行われるものではない。

表示上のパターンから、一括するデータのタイプとして、同一筆者による論文の場合と異なった筆者による場合とにタイプを分けた。さらに、同一筆者の場合は標題と副題の表示のしかたから、さらに2つのタイプに下位分類される。

(1) タイプ1：同一筆者の場合

(a) 標題と副題をペアにする。

題名→ (特集・連載) + (欄名) + (中題) + 標題 + (副題)

上のデータの構造のものに対して、標題と副題をペアにして追い込む。

標題欄→ 標題 + “ ” + 副題 + (“,” + 標題欄)

ただし、特集、欄名、中題などにも相異があるケースが予想されるので、相異する部分を出力用のレコード中にため込んでおき、中間出力のファイルを編集者が見て、内容を校正する過程がある。

特集→ 特集1 + 特集相異文字列欄

特集1→ 【特集 (最初のレコード)】

特集相異文字列欄→ 特集相異文字列<sub>1</sub> + (“,” + 特集相異文字列欄)

特集相異文字列<sub>1</sub>→

[ i 番めの【特集】の文字列 ] と [ 最初の【特集】の文字列 ] を頭から比較していった時に違った文字が現れて以降の [ i 番めの【特集】の文字列 ] の残りの部分。

欄名→ 欄名1 + 欄名相異文字列欄

欄名1→ 【欄名 (最初のレコード)】

欄名相異文字列欄→ 欄名相異文字列<sub>1</sub> + (“,” + 欄名相異文字列欄)

欄名相異文字列<sub>1</sub>→

[ i 番めの【欄名】の文字列] と [最初の【欄名】の文字列] を頭から比較していった時に違った文字が現れて以降の [ i 番めの【欄名】の文字列] の残りの部分。

中題 → 中題 1 + 中題相異文字列欄

中題 1 → 【中題 (最初のレコード)】

中題相異文字列欄 → 相異文字列<sub>i</sub> + (“,” + 中題相異文字列欄)

中題相異文字列<sub>i</sub> →

[ i 番めの【中題】の文字列] と [最初の【中題】の文字列] を頭から比較していった時に違った文字が現れて以降の [ i 番めの【中題】の文字列] の残りの部分。

(b) 標題をまとめ、副題はそのまま。

題名 → (特集・連載) + (欄名) + (中題) + 標題 + (副題)

上のデータの構造のものに対して、複数の標題を標題欄に追い込む。

標題欄 → 標題 + (“,” + 標題欄)

ただし、上記と同様に特集、欄名、中題などにも相異があるケースが予想されるが、ここでは副題も同じになるため、さらに副題についても処理が追加される。すなわち、

副題 → 副題 1 + 副題相異文字列欄

副題 1 → 【副題 (最初のレコード)】

副題相異文字列欄 → 相異文字列<sub>i</sub> + (“,” + 副題相異文字列欄)

副題相異文字列<sub>i</sub> →

[ i 番めの【副題】の文字列] と [最初の【副題】の文字列] を頭から比較していった時に違った文字が現れて以降の [ i 番めの【副題】の文字列] の残りの部分。

(2) タイプ 2 : 異なった筆者による場合

題名 → (特集・連載) + (欄名) + (中題) + 標題 + (副題)

上のデータの構造のものに対して、標題と副題と筆者をセットにして標題

に追い込む。ただし、連続の最後のレコードについては筆者は筆者欄においておく。これは一括しないレコードの処理に混ぜて処理するための措置である。

標題欄→ 【標題】+ “ ”+ 【副題】+ “(”+ 【筆者】+ “)”  
+ (“,”+標題欄)

## 6. 電算写植への接続

電算写植への接続のために、国語年鑑の印刷を受け持っている印刷会社とデータの受け渡しのためのインターフェースの規定を定める必要がある。どこまでを研究所側でやり、どこまでを印刷会社でやるかということについて、データ処理上の切り分けの境界を決めるための検討を行った。

国語年鑑の文書の構造や組版プログラムの解析を行いながら、印刷会社との調整を行い、データを出力する研究所側と組版出力する印刷会社との接点を検討した。調整と実験の結果、つぎのような方針でシステムを作ることにした。

1. 出力用に変換したデータの項目単位での制御に関することは写植の組版プログラムの制御に置き換えやすい部分なので出力の様式を規定するだけで制御は基本的に組版プログラムに任せる。

2. 項目内の局所的な制御に関することは、データ中に入れ込んでおく。

3. データベースから、国語年鑑の出版の形式にまとめるプロセスはこのシステムが行う。(年鑑は本としての体裁や見やすさ、スペースの節約などのためのいくつかの掲載する際にまとめかたをしている。これをサポートするようにした。)

## 7. データベースからの出力処理

### 7.1 出力処理の概要

出力の処理の流れを大きく括ると以下ようになる。

#### (1) 刊行図書

## 本文編についての処理

1. データのソート（年鑑の配列順）
2. 分類コードの処理
  - 2.1 複数分類の省略
  - 2.2 分類コードの統合
  - 2.3 分類コードを分類タイトル（文字による分類の表記）に変換
3. 複数レコードの一括処理（論集，記念論文集等）
4. 出力用にデータ構造の変換
5. 分類見だしのレコードの挿入
6. ルールやコメント等を含むヘッダー（情報の記録用のもの）をデータ冒頭に挿入

追補編についての処理は基本的に本文編と同じであるが，分類見だしのところだけ，分類を簡略化する処理が追加される。

## (2) 雑誌論文

1. レコードのソート（年鑑の配列順）
2. 分類コードの処理
  - 2.1 複数分類の省略
  - 2.2 分類コードの統合
  - 2.3 分類コードを分類タイトルに変換
3. 複数レコードの一括処理（連載や特集等）
4. 出力用にデータ構造の変換
5. 同じ特集や連載などの表記が続く場合の表示の省略
6. 分類見だしのレコードの挿入
7. ルールやコメント等を含むヘッダー（情報の記録用のもの）をデータ冒頭に挿入

追補編についての処理は，上記の刊行図書と同様に，基本的に本文編と同じであるが，分類見だしのところだけ，分類を簡略化する処理が追加される。もとデータ(図5，図9)，変換データ(図6，図10)，電算写植データ(図

7, 図 11), 印字出力 (図 4, 図 8) の例をそれぞれ図に示しておく。

ただし, 図 9-1, 2 のデータは, 5.1.2 節の処理から出力した後のデータであり, レコードのまとめのすんだ状態のところを示す。図 9-3 にまとめる前のレコードのサンプルとして図 8-1 の文献番号 7 のもとデータを示す。

### 7.1.1 出力のためのデータ構造の変換規則

出力のための書誌レコードのまとめ方の規則である。データベースからの出力のテキストデータ上に区切り符号を持ったデータは以下の規則により, 電算写植による出力処理へ渡すデータに変換する。

変換先のデータのフィールドの構造は次の通り。なお, 文献番号の前に和文, 欧文の識別子が入れてあり, 和文の場合は {rec}, 欧文の場合は {e-rec} で始まる。

なお, 出力時の処理として, 同じシリーズ名や特集名などのもとに複数の論文が並ぶときには, 省略した記載の仕方に最終的な出力データとする処理が入っているが, これは, この構造変換の規則とは別の規則になっている。ここでは触れていないが, この処理を受けたものが, 出力されていく。

◇国語(学)一般

- 1 \* 日本型モデルとは何か 国際化時代におけるメリットとデメリット<国際日本文化研究所 共同研究「日本型モデルのメリットとデメリット」>(国際日本文化研究所浜口恵俊代表研究班編) 新曜社 1993-4 A5 449p 5665円  
第3部 日本型モデルとグローバリゼーション 第1章 日本語の表現構造とその世界化の可能性と限界(柳文章)p.333-347 [抜刷]
- 2 \* おもしろ日本語ウンチク事典 楽しみながら日本語に強くなる!<にちぶん文庫>(村石利夫) 日本文芸社 1993-8 A6 249p 480円
- 3 \* ことばの常識・非常識(金井靖雄) 新星出版社 1993-7 B6 238p 1200円
- 4 \* 言葉の達人たち(阿久悠編) 扶桑社 1993-10 B6 247p 1400円
- 5 \* 最新日本語読本<新潮文庫>(新潮編集部編) 新潮社 1993-9 A6 327p 440円
- 6 \* 字件ですよ!校閲ウンチク話<ミューブックス>(毎日新聞ことばんく編) 毎日新聞社 1993-7 B6 237p 800円
- 7 \* 字辞怪説(多叶、基地) 日本図書刊行会(近代文芸社) 1993-4 B6 172p 1500円
- 8 日本語言うたろカード 大学1年生が観察した日本語の世界(小矢野哲夫編刊) 1993-10 B5 98p
- 9 日本人の知らない日本語(富田隆行) 市井社 1993-8 B6 206p 1300円
- 10 \* 日本文化のキーワード 7つのやまと言葉でその宝庫を開く<Non・book 愛蔵版>(栗田勇) 祥伝社 1993-7 B6 187p 1000円
- 11 ことばの教室(萩野貞樹) 近代文芸社 1993-3 B6 222,9p 1400円
- 12 致事前宵 国語・国文・雑感・漫吟(塚原鉄雄) 春光園 1993-10 A5 147p 3000円
- 13 ニホン語日記(井上ひさし) 文芸春秋 1993-6 B40 288p 1100円  
[「週刊文春」に連載(1989.4.20日号~1990.9.27日号および1992.1.16日号~7.9日号)したもの]
- 14 日本語は京の秋空(金田一春彦) スタジオ・シップ 1993-12 B40 141p 1000円
- 15 \* 日本語ハツ当り<新潮文庫>(江国滋) 新潮社 1993-1 A6 230p 360円
- 16 \* わたしの日本語(加太こうじ) 立風書房 1993-11 B6 240p 1600円
- 17 日本語の美(キーン, ドナルド) 中央公論社 1993-10 B6 224p 1300円  
[「新潮」「中央公論」「朝日新聞」等に日本語で書いたエッセイをまとめたもの。]
- 18 日本語解釈活用事典(渡辺富美雄;村石昭三;加部佐助編著) ぎょうせい 1993-7 A5 21,640,11p 3200円  
1.語句・語彙 2.語の構成 3.古語・和語 4.漢字・漢語 5.仮名 6.ローマ字 7.外来語 8.用字・用語 9.地名・人名 10.法令公用文 11.話し合い 12.言葉遣い 13.敬語 14.音声・音

図4-1 刊行図書一覧 印字出カイメージ

- 韻 15. 方言と俚言 16. 文の種類 17. 修辭法 18. 文・文章の構成 19. 文法 20. 文論・文体  
21. マスコミと言葉 22. 符号・記号 23. 日本語の特質
- 19 \* 日本語チェック2000辞典 ( 樺島忠夫ほか編 )  
京都書房 1993-3 A5 397p 1000円
- 20 日本語要説〈言語学テキスト叢書 1〉 ( 工藤浩; 小林賢次; 真田信治; 鈴木泰; 田中穂積; 土岐哲; 仁田義雄; 島弘巳; 林史典; 村木新次郎; 山梨正明 )  
ひつじ書房 1993-5 A5 2,313p 1854円  
1. 現代語の文法・文法論 2. 古代語の文法・文法史 3. 現代語の語彙・語彙論 4. 古代語の語彙・語彙史 5. 現代語の音声・音韻論 6. 古代語の音韻・音韻史 7. 社会言語学・方言学 8. 文章・談話 9. 認知言語学 10. 言語情報処理 11. 日本語学史
- ◇国語学史
- 21 日本言語思想史〈笠間叢書260〉 ( 猿田知之 )  
笠間書院 1993-11 A5 5,447,16p 9270円  
第1部 「国語学史」史の試み 1. 第1期(明治・大正期)の「国語学史」 2. 第2期(昭和前期)の「国語学史」 3. 第3期(昭和後期)の「国語学史」 附 山田孝雄の思想 第2部 背景としての中国・朝鮮の言語思想 第3部 日本言語思想史 第1篇 古代言語思想 第1章 飛鳥期の言語思想
- ◇論文集
- 22 鶴見大学文学部論集 創立三十周年記念 ( 鶴見大学文学部編 )  
鶴見大学 1993-3 A5 7,337,206p  
大斎院名義考証 ( 高田信敬 ) 「おもろさうし」の形容詞について 日本古語との比較を通じて ( 関宮厚司 ) 「正徹本徒然草」の固有名詞 その認定と分類 ( 小野正弘 ) 「コロンブスの卵」の話は、どう受けいられたか ( 古田東朔 ) , ほか
- 23 多々良鎮男先生傘寿記念論文集 ( 多々良鎮男先生傘寿記念論文集刊行会編刊 )  
1993-3 A5 349p 4000円  
序文 〈国語学関係〉 修飾関係, 格関係, 係り関係 ( 小池清治 ) 「連体句・こと・を」の表現構造 ( 小林正治 ) 「太平記」の係り結び その係り結び率 ( 松村晴義 ) 「徒然草」の謙譲語について 受け手尊敬とならない用例を中心として ( 岡崎孝雄 ) 連用修飾語を承ける〈体言プラス「だ」〉の文の構造 ( 河原修一 ) 注釈の接続詞に関する一考察 「可展性」をめぐる ( 赤羽根義章 ) 「全然」の語誌的研究2 ( 若田部明 ) 〈方言学関係〉 栃木県方言分派地質論 ( 大橋勝男 ) 個人の志向性と言語使用 敬語について ( 早野慎吾 ) 県北の対話にみられる文体の特徴 敬意はどう表れているか, など ( 森芳樹 ) 栃木県芳賀郡茂木町の生活語彙 稲作語彙・たばこ耕作語彙・屋号語彙を中心に ( 五味淵光弘 ) 一型アクセントに関する研究 若年層における共通語化について ( 守屋百合子 ) 無ア地域における高校生の東京式ア化現象 東北・北関東方言を対象に ( 森下喜一 ) 〈国語教育関係〉多々良さんの事, ほか 追悼文24件。 多々良鎮男先生略年譜・著書及び学術論文目録
- 24 国語研究 ( 松村明先生喜寿記念会編 )  
明治書院 1993-10 A5 16,972p 20000円  
松村明先生略年譜 松村明先生研究業績目録 人名の文法 ( 白藤礼幸 ) 古事記「天照大御神」訓義考 ( 山口佳紀 ) みのむしの「ちち」 古代親族名称一斑 ( 武井睦雄 ) 音訓交用について ( 沖森卓也 ) ある連音忌避 ( 屋名池誠 ) 中古における疊語形式の情態副詞の機

図4-2 刊行図書一覧 印字出力イメージ (続)

3||日本型モデルとは何か||にほんがたもでる とは なにか||国際化時代におけるメリットとデメリット||こくさいかじだいににおけるめりっととでめりっと||国際日本文化研究所 共同研究 「日本型モデルのメリットとデメリット」||こくさいにほんぶんかけんきゅうじょ きょうどうけんきゅう にほんがたもでるのめりっととでめりっと||国際日本文化研究所浜口恵俊代表研究班/編|こくさいにほんぶんかけんきゅうじょはまぐちえしゅんけんきゅうはん|4★|4★||確定||はまぐち, えしゅん '90研総)から||しんよ|新曜社|680|しんようしゃ||1993|4||A5||449||5665|||抜刷|||A11|||C:あり/'94出p.424から(発行月,判型,頁数,定価)|採|1994本文||\*その他[抜刷]||1994.05.10|1994.08.05:平岩 純一|1994.09.07:小関 小百合||伊藤 菊子|文献カードあり|寄贈|

4|C|日本型モデルとは何か||にほんがたもでる とは なにか||国際化時代におけるメリットとデメリット||こくさいかじだいににおけるめりっととでめりっと||国際日本文化研究所 共同研究 「日本型モデルのメリットとデメリット」||こくさいにほんぶんかけんきゅうじょ きょうどうけんきゅう にほんがたもでるのめりっととでめりっと||国際日本文化研究所浜口恵俊代表研究班/編|こくさいにほんぶんかけんきゅうじょはまぐちえしゅんけんきゅうはん|4★|4★||確定||はまぐち, えしゅん '90研総)から||しんよ|新曜社|680|しんようしゃ||1993|4||A5||449||5665|||抜刷|||第3部 日本型モデルとグローバリゼーション 第1章 日本語の表現構造とその世界化の可能性と限界p.333-347 [抜刷] |だい3ぶ にほんがたもでるとごろおぼりぜいしょん だい1しゅう にほんごのひょうげんこうざうとそのせいかのかのうせいとげんかい|柳父 章|やなぶ, あきら|#|||A1/F3/J33|||A11|||p.333-347|採|1994本文||\*その他[抜刷]||1994.05.10|1994.08.05:平岩 純一|1994.10.26:小関 小百合||伊藤 菊子|文献カードあり|寄贈|

6||おもしろ日本語ウンチク事典||おもしろ にほんご うんちく じてん||楽しみながら日本語に強くなる!|たのしみながらにほんごにつよくなる||にちぶん文庫||にちぶんぶんこ|||村石 利夫/著|むらいし, としお|#|||東京|||にほん|日本芸社||1131||にほんぶんけいしや||1993|8|15|A6||249|1480|||A11|||A11|||4-537-06115-4|ⓄKF19|810.49|s1.日本語|JP93-61680/44|KF19-E62||採|1994本文||\*全国書誌||1994.03.04:中西 裕樹/1994.04.04修正:平岩 純一||伊藤 菊子|文献カードあり||

7||ことばの常識・非常識||ことば の じょうしき ひじょうしき|||金井 靖雄/著|かない, やすお|4△|4△|かない, やすお|要調査|||東京|||しんせ|新星出版社|665|しんせいしゅっぱんしや||1993|7|19|B6||238||1200|||A11|||A11|||4-405-00564-8|ⓄKF19|810.4|s1.日本語|JP93-52630/38|KF19-E61||採|1994本文||\*全国書誌||1994.03.10:平岩 純一||伊藤 菊子|文献カードあり||

8||言葉の達人たち||ことば の たつじんたち|||阿久 悠/編|あく, ゆう|4△|4△|あく, ゆう|要調査|||東京|||ふそう|扶桑社|1258|ふそうしや||1993|10|20|B6||247||1400|||A11|||4-594-01254-X|ⓄKF21|810.4|s1.日本語|JP94-22450/16|KF21-E84|著者の肖像あり|採|1994本文||\*全国書誌||1994.04.28:平岩 純一||伊藤 菊子|文献カードあり||

9||最新日本語読本||さいしん にほんご どくほん|||新潮文庫||しんちょうぶんこ|||新潮編集部/編|しんちょうへんしゅうぶ|4★|4★||しんちょうへんしゅうぶ|確定|||東京|||しんち|新潮社|670|しんちようしや||1993|9|15|A6||327|1440|||A11|||A11|||4-10-120841-7|ⓄKF141|810.4|s1.日本語|JP94-01219/1|KF141-E121||採|1994本文||\*全国書誌||1994.03.07:平岩 純一||伊藤 菊子|文献カードあり||

10||字件ですよ!校閲ウンチク話||じけん ですよ こうえつ うんちくばなし|||ミューブックス||みゅうぶっくす|||毎日新聞ことばんく/編|まいにちしんぶんことばんく|4★|4★||まいにちしんぶんことばんく|確定|||東京|||まいに|毎日新

図5-1 刊行図書一覧 もとデータ

聞社|1336|まいにちしんぶんしゃ|||||1993|7|18|B6||237||800|||||  
 |||||A11||4-620-72074-7|①KF19|810.49|s1.日本語|JP93-52631/38|KF19-E60||採|1  
 994本文||\*全国書誌||1994.03.10:平岩 純一/1994.04.04修正/1994.05.24修正:佐  
 久間 泉|1994.09.07:小関 小百合|伊藤 菊子|文献カードあり||  
 11||字辞怪説||じじ かいせつ|||||多叶 一、基地/著|たかの, てんきち  
 4△|4△|たかの, てんきち|要調査||東京|||にほん|日本図書館刊行会||119|にほん  
 としょかんこうかい|||きんだ|近代文芸社|357|きんだいぶんげいしゃ||1993|4|2  
 0|B6||172||1500|||||A11||4-7733-1846-5|①KF19|810.4|s1.日本語  
 |JP93-42374/31|KF19-E59||採|1994本文||\*全国書誌||1994.01.10:佐久間 泉||伊  
 藤 菊子|文献カードあり||  
 12||日本語言うたろカード||にほんご ゆうたろ かあど||大学1年生が観察した日本  
 語の世界||だいがく1ねんせいがかんさつしたにほんごのせかい|||||小矢野  
 哲夫/編刊|こやの, てつお|#|||||箕面|||こやの|【↑小矢野哲夫↑】||こやの  
 てつお||N|||||1993|10|26|B5|98|||||A11||未整理||①KF19|  
 810.49|s1.日本語|JP94-15240/11|KF19-E66||採|1994本文||研究所図書館|全国書誌||1  
 994.07.27|1994.03.24:平岩 純一/1994.07.28修正||伊藤 菊子|文献カードあり||  
 13||日本人の知らない日本語||にほんじん の しらない にほんご|||||  
 |富田 隆行/著|とみた, たかゆき|#|||||“C”著者紹介 よみつき|東京||しせ  
 い市井社||しせいしゃ||N|||||1993|8|20|B6||206||1300|||||  
 A11||未整理|4-88208-025-7 C1081|①KF21|810.4|s1.日本語|JP94-38471/27|KF21-E86|  
 |採|1994本文||研究所図書館|全国書誌||1994.07.26|1994.07.28:平岩 純一/1994.08.  
 11修正||伊藤 菊子|文献カードあり||  
 14||日本文化のキーワード||にほん ぶんか の きいわあど||7つのやまと言葉でそ  
 の宝庫を開く||7つのやまとことばでそのほうこをひらく||Non-book 愛蔵版||N o  
 n b o o k あいざうばん|||||栗田 勇/著|くりた, いさむ|●|||||東京|||  
 しょう|祥伝社|636|しょうでんしゃ|||||1993|7|18|B6||187||1000|||||  
 |||||A11||4-396-50036-X|①KF21|810.4|s1.日本語 s2.日本文化|JP93-5714  
 2/41|KF21-E79||採|1994本文||\*全国書誌||1994.02.24:平岩 純一/1994.03.14修正  
 |1994.10.19:小関 小百合|伊藤 菊子|文献カードあり||  
 15||ことばの教室||ことば の きょうしつ|||||萩野 貞樹/著|はぎの,  
 さだき|#|||||著者紹介 よみつき|東京|||きんだ|近代文芸社|357|きんだいぶん  
 げいしゃ|||||1993|3|B6||222|9|1400|||||A11/L3/L4|4N:04  
 H13|4-7733-1887-2 C0095|①KF14|810.4|s1.日本語|JP93-34798/26|KF14-E110||採|  
 1994本文||研究所図書館|全国書誌||1993.10.07|1994.03.14:平岩 純一|1994.09.07:  
 小関 小百合|伊藤 菊子|文献カードあり||  
 16||致事前宵||ちじぜんしょう||国語・国文・雑感・漫吟||こくご こくぶん ざっか  
 ん まんぎん|||||塚原 鉄雄/著|つかはら, てつお|#|||||著者紹介 よみ  
 つき|||||しゅん|春光園||しゅんこうえん||N|||||1993|10||A5||147||3000|||||  
 |||||A14||4N:04 Ts 53|||||採|1994本文||研究所図書館||1994.07.04|  
 1994.07.13:平岩 純一|伊藤 菊子|文献カードあり||  
 17||ニホン語日記||にほんご にっき|||||井上 ひさし/著|いのうえ,  
 ひさし|#|||||“C”よみつき|||ぶんげ|文芸春秋|1284|ぶんげいしゅんじゅう|  
 |||||1993|6||B40||288||1100|||「週刊文春」に連載(1989.4.20日号~1990.9.2  
 7日号および1992.1.16日号~7.9日号)したもの|||||A14||4N:04 I 57|4-1  
 6-347630-X|||||採|1994本文||研究所図書館||1994.07.05|1994.07.06:平岩 純一|  
 1994.09.06:小関 小百合|伊藤 菊子|文献カードあり||  
 18||日本語は京の秋空||にほんご は きょう の あきぞら|||||金田  
 一 春彦/著|きんだいち, はるひこ|#|||||“C”よみつき 著者紹介||すたじ  
 スタジオ・シップ||すたじおしゅぶ||N|||||1993|12||B40||141||1000|||||  
 |||||A14||未整理|4-88315-267-7 C0095|||||採|1994本文||研究所図書館||19

図5-2 刊行図書一覧 もとデータ (続)

もとデータのレコード

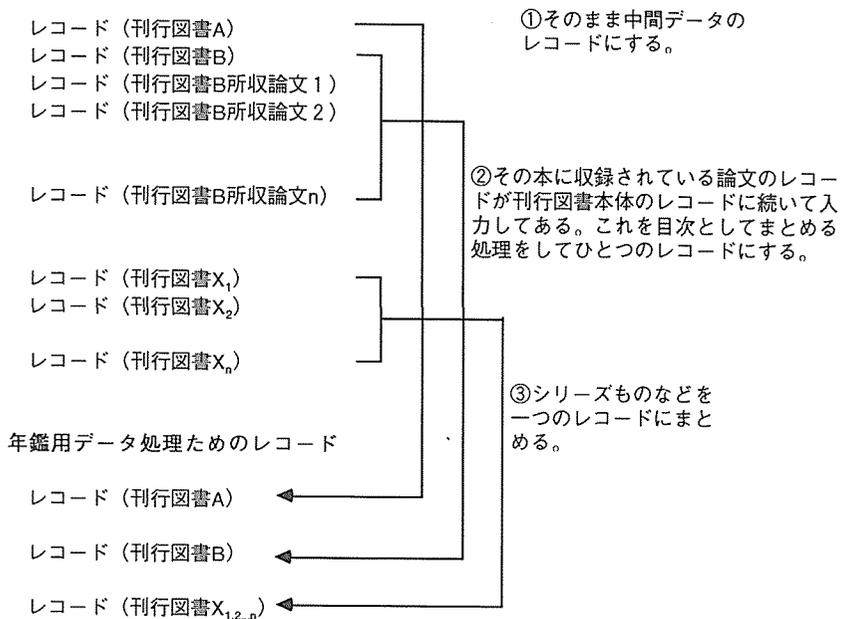


図 5 - 3 刊行図書一覧 もとデータ (続)

年鑑用データのためのレコードのまとめの処理 (刊行図書)

- (bunrui\_1) 国語・国語学
- (bunrui\_2) 国語（日本語）一般
- (rec) 11 \* 日本型モデルとは何か 国際化時代におけるメリットとデメリット（国際日本文化研究所 共同研究 「日本型モデルのメリットとデメリット」）| 国際日本文化研究所 浜口恵俊代表研究班編| 新曜社| 1993-4| A5| 449p| 5665円|| 第3部 日本型モデルとグローバルゼーション 第1章 日本語の表現構造とその世界化の可能性と限界 p. 333-47 [抜刷] 【（）柳文章（）】
- (rec) 21 \* おもしろ日本語ウンテク事典 楽しみながら日本語に強くなる! 〈にちぶん文庫〉| 村石利夫| 日本文芸社| 1993-8| A6| 249p| 480円||
- (rec) 31 \* ことばの常識・非常識| 金井靖雄| 新星出版社| 1993-7| B6| 238p| 1200円||
- (rec) 41 \* 言葉の達人たち| 阿久悠編| 扶桑社| 1993-10| B6| 247p| 1400円||
- (rec) 51 \* 最新日本語読本（新潮文庫）| 新潮編集部編| 新潮社| 1993-9| A6| 327p| 440円||
- (rec) 61 \* 字件ですよ! 校閲ウンテク話〈ミュージック〉| 毎日新聞ことばんく編| 毎日新聞社| 1993-7| B6| 237p| 800円||
- (rec) 71 \* 字辞怪説| 多叶・基地| 日本図書刊行会（近代文芸社）| 1993-4| B6| 172p| 1500円||
- (rec) 81 日本語言うたろカード 大学1年生が観察した日本語の世界| 小矢野哲夫編刊|| 1993-10| B5| 98p||
- (rec) 91 日本人の知らない日本語| 富田隆行| 市井社| 1993-8| B6| 206p| 1300円||
- (rec) 101 \* 日本文化のキーワード 7つのやまと言葉でその宝庫を開く〈Non-book 愛蔵版〉| 栗田勇| 祥伝社| 1993-7| B6| 187p| 1000円||
- (rec) 111 ことばの教室| 萩野貞樹| 近代文芸社| 1993-3| B6| 222.9p| 1400円||
- (rec) 121 致事前宵 国語・国文・雑感・漫吟| 塚原鉄雄| 春光園| 1993-10| A5| 147p| 3000円||
- (rec) 131 ニホン語日記| 井上ひさし| 文芸春秋| 1993-6| B40| 288p| 1100円|| [「週刊文春」に連載(1989.4.20日号～1990.9.27日号および1992.1.16日号～7.9日号)したもの] |
- (rec) 141 日本語は京の秋空| 金田一春彦| スタジオ・シップ| 1993-12| B40| 141p| 1000円||
- (rec) 151 \* 日本語ハツ当り〈新潮文庫〉| 江国滋| 新潮社| 1993-1| A6| 230p| 360円||
- (rec) 161 \* わたしの日本語| 加太こうじ| 立風書房| 1993-11| B6| 240p| 1600円||
- (rec) 171 日本語の美| キーン, ドナルド| 中央公論社| 1993-10| B6| 224p| 1300円|| [「新潮」「中央公論」「朝日新聞」等に日本語で書いたエッセイをまとめたもの。] |
- (bunrui\_2) 国語学
- (rec) 181 日本語解積活用事典| 渡辺富美雄; 村石昭三; 加部佐助編著| ぎょうせい| 1993-7| A5| 21,640.11p| 3200円|| 1. 語句・語彙 2. 語の構成 3. 古語・和語 4. 漢字・漢語 5. 仮名 6. ローマ字 7. 外来語 8. 用字・用語 9. 地名・人名 10. 法令公用文 11. 話し合い 12. 言葉遣い 13. 敬語 14. 音声・音韻 15. 方言と俚言 16. 文の種類 17. 修辭法 18. 文・文章の構成 19. 文法 20. 文論・文体 21. マスコミと言葉 22. 符号・記号 23. 日本語の特質
- (rec) 191 \* 日本語チェック2000辞典| 樺島忠夫ほか編| 京都書房| 1993-3| A5| 397p| 1000円||
- (rec) 201 日本語要説〈言語学テキスト叢書 1〉| 工藤浩; 小林賢次; 真田信治; 鈴木泰; 田中穂積; 土岐哲; 仁田義雄; 梶弘巳; 林史典; 村木新次郎; 山梨正明| ひつじ書房| 1993-5| A5| 2,313p| 1854円|| 1. 現代語の文法・文法論 2. 古代語の文法・文法史 3. 現代語の語彙・語彙論 4. 古代語の語彙・語彙史 5. 現代語の音声・音韻論 6. 古代語の音韻・音韻史 7. 社会言語学・方言学 8. 文章・談話 9. 認知言語学 10. 言語情報処理 11. 日本語学史
- (bunrui\_2) 国語学史
- (rec) 211 日本言語思想史〈笠間叢書260〉| 猿田知之| 笠間書院| 1993-11| A5| 5,447.16p| 9270円|| 第1部 「国語学史」史の試み 1. 第1期(明治・大正期)の「国語学史」 2. 第2期(昭和前期)の「国語学史」 3. 第3期(昭和後期)の「国語学史」 附 山田孝雄の思

図 6 - 1 刊行図書一覧 出力データ

想 第2部 背景としての中国・朝鮮の言語思想 第3部 日本語思想史 第1篇 古代言語思想 第1章 飛鳥期の言語思想

{bunrui\_2}論文集

{rec}22|鶴見大学文学部論集|創立三十周年記念|鶴見大学文学部編|鶴見大学|1993-3|A5|7, 337, 206p||大斎院名義考証【( )高田信敬【】】 「おもろさうし」の形容詞について 日本語との比較を通じて【( )間宮厚司【】】 「正徹本徒然草」の固有名詞 その認定と分類【( )小野正弘【】】 「コロンブスの卵」の話は、どう受けいれてきたか【( )古田東朔【】】

{rec}23|多々良鎮男先生傘寿記念論文集|多々良鎮男先生傘寿記念論文集刊行会編刊||1993-3|A5|1349p|4000円||序文 (国語学関係) 修飾関係, 寿関係, 係り関係【( )小池清治【】】 「連体句・こと・を」の表現構造【( )小林正治【】】 「太平記」の係り結び その係り結び率【( )松村晴義【】】 「徒然草」の謙讓語について 受け手尊敬とならない用例を中心として【( )岡崎孝雄【】】 連用修飾語を承ける〈体言プラス「だ」〉の文の構造【( )河原修一【】】 注釈の接続詞に関する一考察 「可展性」をめぐる【( )赤羽根義章【】】 「全然」の語誌的研究2【( )若田部明【】】 (方言学関係) 栃木県方言分派地質論【( )大橋勝男【】】 個人の志向性と言語使用 敬語について【( )早野慎吾【】】 東北の対話にみられる文体の特徴 敬意はどう表れているか, など【( )森芳樹【】】 栃木県芳賀郡茂木町の生活語彙 稲作語彙・たばこ耕作語彙・屋号語彙を中心に【( )五味淵光弘【】】 一型アクセントに関する研究 若年層における共通語化について【( )守屋百合子【】】 無ア地域における高校生の東京式ア化現象 東北・北関東方言を対象に【( )森下喜一【】】 (国語教育関係) 多々良さんの事, ほかに追悼文24件。 多々良鎮男先生略年譜・著書及び學術論文目録

{rec}24|国語研究|松村明先生喜寿記念会編|明治書院|1993-10|A5|16, 972p|20000円||松村明先生略年譜 松村明先生研究業績目録 人名の文法【( )白藤礼幸【】】 古事記「天照大御神」訓義考【( )山口佳紀【】】 みのむしの「ちち」 古代親族名 一斑【( )武井陸雄【】】 音訓交用について【( )沖森卓也【】】 ある連音忌避【( )屋名池誠【】】 中古における置語形式の情態副詞の機能と意味【( )鈴木泰【】】 「御」の一用例【( )小島聡子【】】 「第四群点」再考 「テニハル点」を中心に【( )築島裕【】】 十二世紀の仏書訓点資料の特質 従来の研究の問題点と今後の課題【( )月本雅幸【】】 訓点資料の「自敬表現」について 「敬語コード」・「敬語メッセージ」による敬語史的解釈【( )西田直敏【】】 倭名類聚抄二十卷本諸本再考【( )宮沢俊雅【】】 仏典仮名書き本に於ける、元漢字の再読字に対応する語法について 主に「往生要集」の場合【( )古田恵美子【】】 悉曇要集記奥文の音図をめぐる【( )肥爪周二【】】 状態化形式の推移補記【( )金水敏【】】 「涙をはらはらとながいて」 『平家物語』の表現特性【( )橋豊【】】 近世における漢文訓読法の復古【( )斎藤文俊【】】 本居宣長書入本寛永版『古事記』に就いて 別天神「国稚」の項【( )岡本準水【】】 「古今集鄙言」における助詞・助動詞の俗語訳 「古今集遠鏡」「あゆひ抄」と比較して【( )池上秋彦【】】 「古言清濁考」成立攷【( )石塚晴通【】】 候文における「候」字の機能【( )矢田勉【】】 明治時代語探究の一つの試み【( )松井栄一【】】 新漢語の受け入れについて 「全然」を例として【( )鈴木英夫【】】 「人民」「国民」「臣民」の消長【( )京極興一【】】 日本語語彙の近代化 外来語受け入れの方法について【( )シュテファン, カイザー【】】 明治東京語における連母音アイの音訛 江戸語との比較【( )小松寿雄【】】 「ゾーフハルマ」の方言【( )坂梨隆三【】】 写本・古活字本・整版本の表記「恨の介」を資料として【( )久保田篤【】】 「雨月物語」の日本漢語【( )柏谷嘉弘【】】 『東海道四谷怪談』に見られる打消の助動詞 「ぬ」系のもので使っている人たち【( )古田東朔【】】 現代日本語の表記の諸問題【( )松原純一【】】 現行の仮名字体をめぐって【( )宇野義方【】】 補助動詞「やる」について【( )藤井正【】】 日数詞ムヨカ(6日)について 「言海」に紛れこんだ東北方言【( )安田尚道【】】

図6-2 刊行図書一覧 出力データ (続)

図 100 国語(学) 図 101 国語(学)一般 図 102 1 国語(学) \* 日本型モデルとは何か 国際化時代におけるメリットとデメリット (国際日本文化研究所 共同研究 図 222D 日本型モデルのメリットとデメリット 図 222E) 図 国際日本文化研究 図 103 究所 濱口 恵俊 代表 研究 班 編 図 新 曜 社 図 1993-4 図 A5 図 449p 図 5665 図 104 図 105 図 106 第 3 部 日本型モデルとグローバリゼーション 第 1 章 日本語の表現構造とその世界化の可能性 図 107 図 108 図 109 図 110 図 111 図 112 図 113 図 114 図 115 図 116 図 117 図 118 図 119 図 120 図 121 図 122 図 123 図 124 図 125 図 126 図 127 図 128 図 129 図 130 図 131 図 132 図 133 図 134 図 135 図 136 図 137 図 138 図 139 図 140 図 141 図 142 図 143 図 144 図 145 図 146 図 147 図 148 図 149 図 150 図 151 図 152 図 153 図 154 図 155 図 156 図 157 図 158 図 159 図 160 図 161 図 162 図 163 図 164 図 165 図 166 図 167 図 168 図 169 図 170 図 171 図 172 図 173 図 174 図 175 図 176 図 177 図 178 図 179 図 180 図 181 図 182 図 183 図 184 図 185 図 186 図 187 図 188 図 189 図 190 図 191 図 192 図 193 図 194 図 195 図 196 図 197 図 198 図 199 図 200 図 201 図 202 図 203 図 204 図 205 図 206 図 207 図 208 図 209 図 210 図 211 図 212 図 213 図 214 図 215 図 216 図 217 図 218 図 219 図 220 図 221 図 222 図 223 図 224 図 225 図 226 図 227 図 228 図 229 図 230 図 231 図 232 図 233 図 234 図 235 図 236 図 237 図 238 図 239 図 240 図 241 図 242 図 243 図 244 図 245 図 246 図 247 図 248 図 249 図 250 図 251 図 252 図 253 図 254 図 255 図 256 図 257 図 258 図 259 図 260 図 261 図 262 図 263 図 264 図 265 図 266 図 267 図 268 図 269 図 270 図 271 図 272 図 273 図 274 図 275 図 276 図 277 図 278 図 279 図 280 図 281 図 282 図 283 図 284 図 285 図 286 図 287 図 288 図 289 図 290 図 291 図 292 図 293 図 294 図 295 図 296 図 297 図 298 図 299 図 300 図 301 図 302 図 303 図 304 図 305 図 306 図 307 図 308 図 309 図 310 図 311 図 312 図 313 図 314 図 315 図 316 図 317 図 318 図 319 図 320 図 321 図 322 図 323 図 324 図 325 図 326 図 327 図 328 図 329 図 330 図 331 図 332 図 333 図 334 図 335 図 336 図 337 図 338 図 339 図 340 図 341 図 342 図 343 図 344 図 345 図 346 図 347 図 348 図 349 図 350 図 351 図 352 図 353 図 354 図 355 図 356 図 357 図 358 図 359 図 360 図 361 図 362 図 363 図 364 図 365 図 366 図 367 図 368 図 369 図 370 図 371 図 372 図 373 図 374 図 375 図 376 図 377 図 378 図 379 図 380 図 381 図 382 図 383 図 384 図 385 図 386 図 387 図 388 図 389 図 390 図 391 図 392 図 393 図 394 図 395 図 396 図 397 図 398 図 399 図 400 図 401 図 402 図 403 図 404 図 405 図 406 図 407 図 408 図 409 図 410 図 411 図 412 図 413 図 414 図 415 図 416 図 417 図 418 図 419 図 420 図 421 図 422 図 423 図 424 図 425 図 426 図 427 図 428 図 429 図 430 図 431 図 432 図 433 図 434 図 435 図 436 図 437 図 438 図 439 図 440 図 441 図 442 図 443 図 444 図 445 図 446 図 447 図 448 図 449 図 450 図 451 図 452 図 453 図 454 図 455 図 456 図 457 図 458 図 459 図 460 図 461 図 462 図 463 図 464 図 465 図 466 図 467 図 468 図 469 図 470 図 471 図 472 図 473 図 474 図 475 図 476 図 477 図 478 図 479 図 480 図 481 図 482 図 483 図 484 図 485 図 486 図 487 図 488 図 489 図 490 図 491 図 492 図 493 図 494 図 495 図 496 図 497 図 498 図 499 図 500 図 501 図 502 図 503 図 504 図 505 図 506 図 507 図 508 図 509 図 510 図 511 図 512 図 513 図 514 図 515 図 516 図 517 図 518 図 519 図 520 図 521 図 522 図 523 図 524 図 525 図 526 図 527 図 528 図 529 図 530 図 531 図 532 図 533 図 534 図 535 図 536 図 537 図 538 図 539 図 540 図 541 図 542 図 543 図 544 図 545 図 546 図 547 図 548 図 549 図 550 図 551 図 552 図 553 図 554 図 555 図 556 図 557 図 558 図 559 図 560 図 561 図 562 図 563 図 564 図 565 図 566 図 567 図 568 図 569 図 570 図 571 図 572 図 573 図 574 図 575 図 576 図 577 図 578 図 579 図 580 図 581 図 582 図 583 図 584 図 585 図 586 図 587 図 588 図 589 図 590 図 591 図 592 図 593 図 594 図 595 図 596 図 597 図 598 図 599 図 600 図 601 図 602 図 603 図 604 図 605 図 606 図 607 図 608 図 609 図 610 図 611 図 612 図 613 図 614 図 615 図 616 図 617 図 618 図 619 図 620 図 621 図 622 図 623 図 624 図 625 図 626 図 627 図 628 図 629 図 630 図 631 図 632 図 633 図 634 図 635 図 636 図 637 図 638 図 639 図 640 図 641 図 642 図 643 図 644 図 645 図 646 図 647 図 648 図 649 図 650 図 651 図 652 図 653 図 654 図 655 図 656 図 657 図 658 図 659 図 660 図 661 図 662 図 663 図 664 図 665 図 666 図 667 図 668 図 669 図 670 図 671 図 672 図 673 図 674 図 675 図 676 図 677 図 678 図 679 図 680 図 681 図 682 図 683 図 684 図 685 図 686 図 687 図 688 図 689 図 690 図 691 図 692 図 693 図 694 図 695 図 696 図 697 図 698 図 699 図 700 図 701 図 702 図 703 図 704 図 705 図 706 図 707 図 708 図 709 図 710 図 711 図 712 図 713 図 714 図 715 図 716 図 717 図 718 図 719 図 720 図 721 図 722 図 723 図 724 図 725 図 726 図 727 図 728 図 729 図 730 図 731 図 732 図 733 図 734 図 735 図 736 図 737 図 738 図 739 図 740 図 741 図 742 図 743 図 744 図 745 図 746 図 747 図 748 図 749 図 750 図 751 図 752 図 753 図 754 図 755 図 756 図 757 図 758 図 759 図 760 図 761 図 762 図 763 図 764 図 765 図 766 図 767 図 768 図 769 図 770 図 771 図 772 図 773 図 774 図 775 図 776 図 777 図 778 図 779 図 780 図 781 図 782 図 783 図 784 図 785 図 786 図 787 図 788 図 789 図 790 図 791 図 792 図 793 図 794 図 795 図 796 図 797 図 798 図 799 図 800 図 801 図 802 図 803 図 804 図 805 図 806 図 807 図 808 図 809 図 810 図 811 図 812 図 813 図 814 図 815 図 816 図 817 図 818 図 819 図 820 図 821 図 822 図 823 図 824 図 825 図 826 図 827 図 828 図 829 図 830 図 831 図 832 図 833 図 834 図 835 図 836 図 837 図 838 図 839 図 840 図 841 図 842 図 843 図 844 図 845 図 846 図 847 図 848 図 849 図 850 図 851 図 852 図 853 図 854 図 855 図 856 図 857 図 858 図 859 図 860 図 861 図 862 図 863 図 864 図 865 図 866 図 867 図 868 図 869 図 870 図 871 図 872 図 873 図 874 図 875 図 876 図 877 図 878 図 879 図 880 図 881 図 882 図 883 図 884 図 885 図 886 図 887 図 888 図 889 図 890 図 891 図 892 図 893 図 894 図 895 図 896 図 897 図 898 図 899 図 900 図 901 図 902 図 903 図 904 図 905 図 906 図 907 図 908 図 909 図 910 図 911 図 912 図 913 図 914 図 915 図 916 図 917 図 918 図 919 図 920 図 921 図 922 図 923 図 924 図 925 図 926 図 927 図 928 図 929 図 930 図 931 図 932 図 933 図 934 図 935 図 936 図 937 図 938 図 939 図 940 図 941 図 942 図 943 図 944 図 945 図 946 図 947 図 948 図 949 図 950 図 951 図 952 図 953 図 954 図 955 図 956 図 957 図 958 図 959 図 960 図 961 図 962 図 963 図 964 図 965 図 966 図 967 図 968 図 969 図 970 図 971 図 972 図 973 図 974 図 975 図 976 図 977 図 978 図 979 図 980 図 981 図 982 図 983 図 984 図 985 図 986 図 987 図 988 図 989 図 990 図 991 図 992 図 993 図 994 図 995 図 996 図 997 図 998 図 999 図 1000

図 7-1 刊行図書一覧 電算写植データ

国国国18国日本語解釈活用事典国渡辺富美雄；村石昭三；加部佐助編著国  
 ぎょうせい国1993-7国A5国21,640,11p国3200国国円国国  
 国国国1.語句・語彙 2.語の構成 3.古語・和語 4.漢字・漢語 5.仮名 6.ローマ字  
 7.外来語 8.国  
 用字・用語 9.地名・人名 10.法令公用文 11.話し合い 12.言葉遣い 13.敬語 14.  
 音声・音国  
 国002頁01段国国  
 韻 15.方言と俚言 16.文の種類 17.修辭法 18.文・文章の構成 19.文法 20.文論  
 ・文体 国  
 21.マスコミと言葉 22.符号・記号 23.日本語の特質国  
 国国国19国国国国国\*国国日本語チェック2000辞典国樺島忠夫ほか編国国  
 京都書房国1993-3国A5国397p国1000国国円国国  
 国国国19~24国国国国20国日本語要説〈言語学テキスト叢書国1〉国工藤浩；小林賢次  
 ；真田信治；鈴木泰；田国  
 中穂積；土岐哲；仁田義雄；畠弘巳；林史典；村木新次郎；山梨正明国国  
 ひつじ書房国1993-5国A5国2,313p国1854国国円国国  
 国国国1.現代語の文法・文法論 2.古代語の文法・文法史 3.現代語の語彙・語彙論  
 4.古代語の語彙・国  
 語彙史 5.現代語の音声・音韻論 6.古代語の音韻・音韻史 7.社会言語学・方言学  
 8.文章・国  
 談話 9.認知言語学 10.言語情報処理 11.日本語学史国  
 国国国国語学史国国  
 国国国21国日本言語思想史〈笠間叢書260〉国猿田知之国国  
 笠間書院国1993-11国A5国5,447,16p国9270国国円国国  
 国国国第1部 国222D国語学史国222E史の試み 1.第1期(明治・大正期)の国222D国語学  
 史国222E 2.第2期(昭和前期)の国222D国  
 語学史国222E 3.第3期(昭和後期)の国222D国語学史国222E 附 山田孝雄の思想 第2  
 部 背景としての中国・国  
 朝鮮の言語思想 第3部 日本言語思想史 第1篇 古代言語思想 第1章 飛鳥期の言  
 語思想国  
 国国国国論文集国国  
 国国国22国鶴見大学文学部論集 創立三十周年記念国鶴見大学文学部編国国  
 鶴見大学国1993-3国A5国7,337,206p国国  
 国国国大斎院名義考証国国(国国国国国高田信敬国国)国国 国222Dおもしろさし国222E  
 の形容詞について 日本古語との比較を通じ国  
 て国国(国国国国国間宮厚司国国)国国 国222D正徹本徒然草国222Eの固有名詞 その認  
 定と分類国国(国国国国国小野正弘国国)国国 国222Dコロンブ国  
 スの卵国222Eの話は、どう受けいらてきたか国国(国国国国国古田東朔国国)国国, ほか  
 国  
 国国国23国多々良鎮男先生傘寿記念論文集国多々良鎮男先生傘寿記念論文集刊行会編刊  
 国国  
 国1993-3国A5国349p国4000国国円国国  
 国国国序文 国〈国語学関係〉修飾関係, 格関係, 係り関係国国(国国国国国小池清  
 治国国)国国 国222D連体句・こと・を国222Eの表国  
 現構造国国(国国国国国小林正治国国)国国 国222D太平記国222Eの係り結び その係り  
 結び率国国(国国国国国松村晴義国国)国国 国222D徒然草国222Eの国  
 謙讓語について 受け手尊敬とならない用例を中心として国国(国国国国国岡崎孝雄国  
 国)国国 連用修飾語を承ける国  
 〈体言プラス国222Dだ国222E〉の文の構造国国(国国国国国河原修一国国)国国 注釈の  
 接続詞に関する一考察 国222D可展性国222Eをめ国

## 図7-2 刊行図書一覧 電算写植データ (続)



- 国語学 研究と資料17 1993-12 p.1-14
- 17 契沖の定家仮名遣い批判 四声観との関係から (坂本清恵)  
国文学研究(早稲田大学)109 1993-3 p.82-91
- 18 「詞の玉緒」成立考 (胆吹覚) 国文学論叢(龍谷大学)38 1993-2 p.40-59
- 19 南都仏教の語学的研究について(1) 善珠を中心として (猿田知之)  
シオン短期大学研究紀要33 1993-12 p.61-90
- 20 <論説>「手爾葉大概抄」とその周辺 てには論の生長過程について (佐田智明)  
福岡大学人文論叢25-3 1993-12 p.1433-1459
- 21 「詞」と「詞」との関わり 『詞通路』「詞天尔乎波のかゝる所の事」における扱ひ (佐藤宣男)  
福島大学教育学部論集 人文科学部門54 1993-11 p.1-8
- 22 「名語記」の形容詞認識 辞書と歌学・連歌学の形容詞認識の齟齬 (飯田晴巳)  
富士フェニックス論叢1 1993-3 p.77-109,201
- 23 宣長一腹における「自他」の系譜 腹が継承したものとその独自性 (中村朱美)  
文莫(鈴木腹学会)18 1993-11 p.37-61
- 24 本居宣長の文法整理 係結びの周辺 (浅見徹) 文林27 1993-3 p.31-51
- 25 契沖の声点注記について (坂本清恵) 早稲田日本語研究1 1993-3 p.26-39
- 26 古事記——宣長・虚構された「古さ」 平安朝平仮名文字の視線・「日本」(山下久夫)  
古代文学(古代文学会)32 1993-3 p.43-53
- 27 古代語文法を再考する——弱変化を単位に認めた人々(1) (中山昌久)  
国文学 解釈と鑑賞(至文堂)58-7 1993-7 p.98-106
- 28 古典の窓——五十音図の基底にあるもの (馬淵和夫)  
国語教室(大修館書店)49 1993-6 p.46-50
- 29 陳述論の経過とその意義 (重見一行)  
高大国語教育(高知大学)41 1993-12 p.20-33
- 30 日本語研究者はいつ論文を書くか 「日本語研究文献目録・雑誌編」に見られる年齢構造 (荻野綱男)  
国語学(国語学会)173 1993-6 p.90-77,73
- 31 <短信> 女性研究者の子育ての負担について (荻野綱男)  
国語学(国語学会)174 1993-9 p.64-65
- 32 松下文法に於ける副詞 (枘岡正浩) 国語研究(国学院大学)56 1993-3 p.49-58
- 33 明治三十七年の方言境界線 (柴田武) 図書(岩波書店)529 1993-7 p.38-40
- 34 根来司氏を悼む (福島邦道) 日本語学(明治書院)12-5 1993-5 p.107-110
- 35 Mase, Yoshio : Professor Takesi Sibata's Accomplishments in the Field of Linguistic Geography. 一広島女学院大学論集43, 12 1993, p.1-11.
- 36 韓國의 日本語學研究 어디까지 왔나 (李漢燮)  
日本學報(韓國・日本學會)30 1993-5 p.109-125
- 37 世界の女性語・日本の女性語——日本における女性語研究 日本における女性語研究史 (寺田智美)  
日本語学(明治書院)12-6 1993-5 p.262-268

図 8 - 2 雑誌論文一覧 印字出力イメージ (続)

- 386|日本語文化学のごころみ|にほんげんごぶんかがくのごころみ||On Linguistic Study of Japanese with Particular Reference to Japanese Culture|||孫宗光|孫宗光|◆|Sun, Zong-guang||漢外, 北京大学|がくし|学習院大学言語共同研究所紀要|165|がくしゅういんだいがくげんごきょうどうけんきゅうじょきょう|Bulletin of the Language Institute of Gakushuin University||15|学習院大学言語共同研究所||1993|3|78-83|6|||無||A11;||1994||雑誌||1994. 7. 1|採|B6||平岩 純一|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|孫宗光 |0||A11
- 854|文学的言語の創造=紫式部=|ぶんがくてきげんごのそうぞう むらさきしきぶ|||第四十九回国語問題講演会記録||小池 清治|こいけ, せいじ|#|||こくご|国語国字(国語問題協議会)|383|こくごくじ|||159|国語問題協議会||1993|4|12-21|0|||無||A11;||1994||雑誌||1994. 7. 1|採|A5||平岩 純一|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|こいけ, せいじ |0||A11
- 1601|日本の国際化と言語生活|にほんのこくさいかとげんごせいかつ|「ら抜き言葉」を例にして|Japan's Internationalization and Language Usage|Ra-Deletion of Verb Conjugation as an Example|||特別講演||甲斐 睦朗|かい, むつろう|#||Kai, Mutsuro|||にちご|日語日文学研究(韓国・日語日文学会)||にちごにちぶんがくけんきゅう|Journal of Japanese Language and Literature, The Japanese Language and Literature Association of Korea||23|韓国日語日文学会||1993|12|1-13|13|||無||A11;|誌名新規登録||1994||雑誌||1994. 9. 6|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|かい, むつろう |0||A11
- 1705|教科書の日本語|きょうかしょのにほんご|||教科書の日本語||エッセイ||柴田 武|しばた, たけし|#|||にほん|日本語学(明治書院)|846|にほんごがく||12|2|明治書院||1993|2|4-7|4|||無||A11;||1994||雑誌||1994. 7. 29|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|しばた, たけし |0||A11
- 435|日本語の国際化|にほんごのこくさいか|||言葉の文化||野元 菊雄|ののもと, きくお|#|||きょう|教育と情報(文部省)|209|きょういくとじょうほう|Education and Information||428|文部省大臣官房調査統計企画課||第一法規出版|1993|11|14-19|6|||有||A11;||1994||雑誌||1994. 9. 7|採|B5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|ののもと, きくお |0||A11
- 341|美しく豊かな日本語|うつくしくゆたかなにほんご||To Make Japanese a Language with a Variety of Rich Vocabulary||新しい生活美学の創造||野元 菊雄|ののもと, きくお|#||Nomoto, Kikuo|||かてい|家庭科学(日本女子社会教育会家庭科学研究所)||かていかがく|Journal of The Japan Research Institute for Families and Households|60|11||日本女子社会教育会家庭科学研究所||1993|6|12-17|6|||無||A11;|誌名新規登録||1994||雑誌||1994. 5. 17|採|B5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|ののもと, きくお |0||A11
- 2166|日本語は今 小説のことは、漫画のことは(はんざわ かんいち) 方言のゆくえ 日本語はどうなっていくのか(徳川 宗賢) 日本語考現学 東京と地方の言語変化(井上 史雄) 辞書のことは考(白藤 礼幸) マルチメディアと日本語(文字・音声・画像・)の<再現・複製・加工>(合庭 惇) ただいま日本語授業中 言語理

図9-1 雑誌論文一覧 もとデータ

論の変化の中で(中村 妙子) アメリカでの日本語教育の現状(根津 真知子) 日本語が失ったもの 日本語はどうなっていくのか(中村 明) 日本語の未来を占う 語彙と漢字を中心に(前田 富祺)|にほんごのみらいをうらなう|||日本語の現在—現代語、何が問題か?|||はんざわ かんいち|まえだ, とみよし|#|||こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく||38|12|563|学燈社||1993|11|9-11|30|||無||A11;|一括||1994||雑誌||1994. 7. 18|採|A5||中西 裕樹|1994年10月21日|1994年10月21日|完了|まえだ, とみよし |0||A11

2224|国語|こくご|||学会時評||森野 宗明|もりの, むねあき|#|||こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく||38|1, 8|559|学燈社||1993|1, 7|154-155|4|||無||A13;|一括||1994||雑誌||1994. 6. 28|採|A5||中西 裕樹|1994年10月21日|1994年10月21日|完了|もりの, むねあき |0||A13

2225|国語|こくご|||学会時評||前田 富祺|まえだ, とみよし|#|||こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく||38|4, 11|562|学燈社||1993|4, 10|160-161|4|||無||A13;|一括||1994||雑誌||1994. 6. 28|採|A5||中西 裕樹|1994年10月21日|1994年10月21日|完了|まえだ, とみよし |0||A13

2167|方法論の問題(1)~(3), 文法的範疇としての<数>(1)~(3), <名詞>から<動詞>へ, <動詞>, その他の場合|ほうほうろんのもんだい1|||連載・日本語と日本語論 その虚像と実像(5)~(12)||池上 嘉彦|まえだ, とみよし|#|||こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく||38|1, 8|562|学燈社||1993|1, 8|160-161|57|||無||A13;|一括||1994||雑誌||1994. 6. 28|採|A5||中西 裕樹|1994年10月21日|1994年10月21日|完了|まえだ, とみよし |0||A13

156|「宣長の国語観」抄|のりながのこくごかんしょう|||石井 裕之|いしい, ひろゆき|4|4||よみ付き|愛知県庁|あいち|愛知大学国文学|96|あいちだいがくこくぶんがく|||33|愛知大学国文学会||1993|12|13-26|14|||無||A391;||1994||雑誌||1994. 7. 5|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|いしい, ひろゆき |0||A391

352|「宣長—春庭における「自他」の系譜(1)~(2)」のりなが—はるにわにおけるじたのけいふ1~2|||中村 朱美|なかわら, あけみ|3|#|||かなざ|金沢大学国語国文学|237|かなざわだいがくこくごこくぶん|||18|金沢大学国語国文学会||1993|2|41-50|10|||無||A391;||1994||雑誌||1994. 7. 1|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|なかわら, あけみ |0||A391

468|叶音|きょういん|||高松 政雄|たかまつ, まさお|#|||くんで|訓点語と訓点資料(訓点語学会)|258|くんでんごとくんでんしりょう|Kuntengo to Kuntenshi ryo~|||90|訓点語学会||1993|1|106-116|11|||無||A391;||1994||雑誌||1994. 7. 18|採|B5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|たかまつ, まさお |0||A391

778|近世以後の文論文章論|きんせいいごのぶんろんぶんしょうろん|その展開の素描|||田辺 正男|たなべ, まさお|#|||こくが|国学院短期大学紀要|354|こくがいんたんきだいがくきょう|The Bulletin of Kokugakuin Junior College|||11|国学院短期大学||1993|3|27-41|15|||無||A391;|誌名・外国語誌名・編者名変更||1994||雑

図9-2 雑誌論文一覧 もとデータ(続)

950|日本語は今|にほんごはいま|小説のことば、漫画のことば|||”日本語の現在—現代語、何が問題か?”|現代日本語事情||はんざわ かんいち|はんざわ, かんいち|4|4|よみ付き|共立女子大学助教授|こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく|38|12|563|学燈社||1993|11|116-119|4|||無||A11;|P一括||1994||雑誌||1994.7.18|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|はんざわ, かんいち |0|1|A11|11

932|方言のゆくえ|ほうげんのゆくえ|日本語はどうなっていくのか|||”日本語の現在—現代語、何が問題か?”|日本語はどうなっていくのか|||徳川 宗賢|とくがわ, むねまさ|#|||こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく|38|12|563|学燈社||1993|11|12-14|3|||無||A11;|P一括||1994||雑誌||1994.7.18|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|とくがわ, むねまさ |0|1|A11|11

951|日本語考現学|にほんごこうげんがく|東京地方の言語変化|||”日本語の現在—現代語、何が問題か?”|現代日本語事情||井上 史雄|いのうえ, ふみお|#|||こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく|38|12|563|学燈社||1993|11|120-123|4|||無||A11;|P一括||1994||雑誌||1994.7.18|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|いのうえ, ふみお |0|1|A11|11

952|辞書のことば考|じしょのことばこう|||”日本語の現在—現代語、何が問題か?”|現代日本語事情||白藤 礼幸|しらふじ, のりゆき|#|||こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく|38|12|563|学燈社||1993|11|124-126|3|||無||A11;|P一括||1994||雑誌||1994.7.18|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|しらふじ, のりゆき |0|1|A11|11

953|マルチメディアと日本語|マルチメディアと日本語|まるちめでいあとにほんご<文字・音声・画像>の再現・複製・加工>|||”日本語の現在—現代語、何が問題か?”|現代日本語事情||合庭 惇|あいは, あつし|2|2|よみ付き|記号変更2△→2|こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく|38|12|563|学燈社||1993|11|128-130|3|||無||A11;|P一括||1994||雑誌||1994.7.18|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|あいは, あつし |0|1|A11|11

954|ただいま日本語授業中|ただいまにほんごじゅぎょうちゅう|言語理論の変化の中で|||”日本語の現在—現代語、何が問題か?”|外国人の日本語||中村 妙子|なかむら, たえこ|#|||こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく|38|12|563|学燈社||1993|11|131-133|3|||無||A11;|P一括||1994||雑誌||1994.7.18|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|なかむら, たえこ |0|1|A11|11

955|アメリカでの日本語教育の現状|あめりかでのにほんごきょういくのげんじょう|||”日本語の現在—現代語、何が問題か?”|外国人の日本語||根津 真知子|ねつ, まちこ|4|4|よみ付き|国際基督教大学準教授|こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく|38|12|563|学燈社||1993|11|134-137|4|||無||A11;|P一括||1994||雑誌||1994.7.18|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|ねつ, まちこ |0|1|A11|11

930|日本語が失ったもの|にほんごがうしなつたもの|日本語はどうなっていくのか|||”日本語の現在—現代語、何が問題か?”|日本語はどうなっていくのか|||中村 明|なかむら, あきら|#|||こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく|38|12|563|学燈社||1993|11|16-8|3|||無||A11;|P一括||1994||雑誌||1994.7.18|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|なかむら, あきら |0|1|A11|11

931|日本語の未来を占う|にほんごのみらいをうらなう|語彙と漢字を中心に|||”日本語の現在—現代語、何が問題か?”|日本語はどうなっていくのか|||前田 富祺|まえだ, とみよし|#|||こくぶ|国文学(学燈社)|413|こくぶんがく|38|12|563|学燈社||1993|11|9-11|3|||無||A11;|P一括||1994||雑誌||1994.7.18|採|A5||中西 裕樹|1994年10月16日|1994年10月21日|完了|まえだ, とみよし |0|1|A11|11

図9-3 雑誌論文一覧 もとデータ(続)  
文献番号7にまとめる前のレコード

- {bunrui\_1} 国語 (学)
- {bunrui\_2} 国語 (学) 一般
- {rec} 1|日本言語文化学のこころみ|孫宗光|学習院大学言語共同研究所紀要|15|1993-3|p. 78-83
- {rec} 2|〈第四十九回国語問題講演会記録〉文学的言語の創造=紫式部=|小池清治|国語国字 (国語問題協議会)|159|1993-4|p. 12-21
- {rec} 3|〈特別講演〉日本の国際化と言語生活 「ら抜き言葉」を例にして|甲斐睦朗|日語日文学研究 (韓国・日語日文学会)|23|1993-12|p. 1-13
- {rec} 4|教科書の日本語——〈エッセイ〉教科書の日本語|柴田武|日本語学 (明治書院)|12-2|1993-2|p. 4-7
- {rec} 5|言葉の文化——日本語の国際化|野元菊雄|教育と情報 (文部省)|428|1993-11|p. 14-19
- {rec} 6|新しい生活美学の創造——美しく豊かな日本語|野元菊雄|家庭科学 (日本女子社会教育会家庭科学研究所)|60-1|1993-6|p. 12-17
- {rec} 7|日本語の現在—現代語、何が問題か?—日本語は今 小説のことば、漫画のことば (はんざわ かんいち) 方言のゆくえ 日本語はどうなっていくのか (徳川宗賢) 日本語考現学 東京と地方の言語変化 (井上 史雄) 辞書のことば考 (白藤 礼幸) マルチメディアと日本語 <文字・音声・画像・>の<再現・複製・加工> (合庭 惇) ただいま日本語授業中 言語理論の変化の中で (中村 妙子) アメリカでの日本語教育の現状 (根津 真知子) 日本語が失ったもの 日本語はどうなっていくのか (中村 明) 日本語の未来を占う 語彙と漢字を中心に (前田 富祺)|はんざわかんいち|国文学 (学燈社)|38-12|1993-11|30p
- {rec} 8|〈学会時評〉国語|森野宗明|国文学 (学燈社)|38-1, 8|1993-1, 7|4p
- {rec} 9|〈〃〉国語|前田富祺|国文学 (学燈社)|38-4, 11|1993-4, 10|4p
- {rec} 10|連載・日本語と日本語論 その虚像と実像(5)~(12)——方法論の問題(1)~(3), 文法的範疇としての<数>(1)~(3), <名詞>から<動詞>へ, <動詞>, その他の場合|池上嘉彦|国文学 (学燈社)|38-1, 8|1993-1~8|57p
- {bunrui\_2} 国語学史
- {rec} 11|「宣長の国語観」抄|石井裕之|愛知大学国文学|33|1993-12|p. 13-26
- {rec} 12|宣長—春庭における「自我」の系譜(1)|中村朱美|金沢大学国語国文|18|1993-2|p. 41-50
- {rec} 13|叶音|高松政雄|訓点語と訓点資料 (訓点語学会)|90|1993-1|p. 106-116
- {rec} 14|近世以後の文論文章論 その展開の素描|田辺正男|国学院短期大学紀要|11|1993-3|p. 27-41
- {rec} 15|〈短信〉契沖の五種言説と「弁頭密二教論」|井野口孝|国語学 (国語学会)|173|1993-6|p. 64-65
- {rec} 16|「国字考」の編纂意図の考察 国字研究の一系譜を探る|笹原宏之|国語学 研究と資料|17|1993-12|p. 1-14
- {rec} 17|契沖の定家仮名遣い批判 四声観との関係から|坂本清恵|国文学研究 (早稲田大学)|109|1993-3|p. 82-91
- {rec} 18|「詞の玉緒」成立考|胆吹覚|国文学論叢 (龍谷大学)|38|1993-2|p. 40-59
- {rec} 19|南部仏教の語学的研究について(1) 善珠を中心として|猿田知之|シオン短期大学研究紀要|33|1993-12|p. 61-90
- {rec} 20|〈論説〉「手爾葉大概抄」とその周辺 てには論の生長過程について|佐田智明|福岡大学人文論叢|25-3|1993-12|p. 1433-1459
- {rec} 21|「詞」と「詞」との関わり 『詞通路』『詞天尔乎波のかゝる所の事』における扱い|佐藤宣男|福島大学教育学部論集 人文科学部門|54|1993-11|p. 1-8
- {rec} 22|「名語記」の形容詞認識 辞書と歌学・連歌学の形容詞認識の齟齬|飯田晴巳|富士フェニックス論叢|1|1993-3|p. 77-109, 201
- {rec} 23|宣長—眼における「自我」の系譜 眼が継承したものとその独自性|中村朱美|

図 10-1 雑誌論文一覧 出力データ

- 文莫(鈴木脛学会) |18|1993-11|p. 37-61
- {rec} 24|本居宣長の文法整理 係結びの周辺|浅見徹|文林|27|1993-3|p. 31-51
- {rec} 25|契沖の声点注記について|坂本清恵|早稲田日本語研究|1|1993-3|p. 26-39
- {rec} 26|古事記——宣長・虚構された「古さ」 平安朝平仮名文字の視線・「日本」|山下久夫|古代文学(古代文学会)|32|1993-3|p. 43-53
- {rec} 27|古代語文法を再考する——弱変化を単位に認めた人々(1)|中山昌久|国文学解釈と鑑賞(至文堂)|58-7|1993-7|p. 98-106
- {rec} 28|古典の窓——五十音図の基底にあるもの|馬淵和夫|国語教室(大修館書店)|49|1993-6|p. 46-50
- {rec} 29|陳述論の経過とその意義|重見一行|高大国語教育(高知大学)|41|1993-12|p. 20-33
- {rec} 30|日本語研究者はいつ論文を書くか 「日本語研究文献目録・雑誌編」に見られる年齢構造|荻野綱男|国語学(国語学会)|173|1993-6|p. 90-77, 73
- {rec} 31|〈短信〉女性研究者の子育ての負担について|荻野綱男|国語学(国語学会)|174|1993-9|p. 64-65
- {rec} 32|松下文法に於ける副詞|枘岡正浩|国語研究(国学院大学)|56|1993-3|p. 49-58
- {rec} 33|明治三十七年の方言境界線|柴田武|図書(岩波書店)|529|1993-7|p. 38-40
- {rec} 34|根来司氏を悼む|福島邦道|日本語学(明治書院)|12-5|1993-5|p. 107-110
- {e\_rec} 35|Mase, Yoshio: Professor Takesi Sibata's Accomplishments in the Field of Linguistic Geography. |—|{italic}広島女学院大学論集|upright}|43, |12 1993|p. 1-11
- {e\_rec} 36||李漢\*: 韓国※ 日本語学研究 ※※※※ ※※韓国※ 日本研究——。|—|{italic}日本學報(韓国・日本學會)|upright}|30, |5 1993|p. 109-125
- {rec} 37|世界の女性語・日本の女性語——日本における女性語研究 日本における女性語研究史|寺田智美|日本語学(明治書院)|12-6|1993-5|p. 262-268
- {bunrui\_1}|国語史
- {bunrui\_2}|国語史一般
- {rec} 38|「王賜」銘鉄剣のX線的調査と銘文の表出|永嶋正春|国立歴史民俗博物館研究報告|50|1993-2|p. 409-442
- {rec} 39|「古事記」の言語観及び構造(2) 成長譚を視点として|伊沢正俊|専修国文(専修大学)|52|1993-1|p. 95-117
- {e\_rec} 40||Maruyama, Toru; Barron, J. Patrick: Historical View of the Japanese Language (2). |—|{italic}アカデミア 文学・語学編(南山大学)|upright}|, |9 1993|p. 1-27
- {rec} 41|沙石集の国語学的諸問題(5)|大谷伊都子; 齊藤由美子|梅花短大国語国文|6|1993-10|p. 11-24
- {rec} 42|〈公開学術講演〉東京語と標準語|田中章夫|国学院大学日本文化研究所紀要|72|1993-9|p. 165-209
- {bunrui\_2}|資料研究
- {rec} 43|「經典釈文・論語音義」考(2)|高橋均|東京外国語大学論集|46|1993-3|p. 216-230
- {rec} 44|漢和辞典の歩み——漢和辞典の誕生 「新撰字鏡」「和名類聚抄」「類聚名義抄」|湯沢質幸|しにか(大修館書店)|4-4|1993-4|p. 8-15
- {rec} 45|日本書紀神代卷神名和訓索引|杉浦克己|訓点語と訓点資料(訓点語学会)|91|1993-3|p. 130-72
- {rec} 46|古事記の記定 施注を中心として|西宮一民|国語と国文学(東京大学)|70-4|1993-4|p. 1-14
- {rec} 47|「万葉集」卷十三試注|高橋六二|跡見学園国語科紀要|41|1993-4|p. 25-34
- {rec} 48|〈研究ノート〉万葉集卷10・1893歌の解釈について|新谷正雄|国学院雑誌(国学院大学)|94-3|1993-3|p. 54-63

## 図 10-2 雑誌論文一覧 出力データ(続)



- 国文学研究(早稲田大学) 109 1993-3 p. 82-91  
 18 詞の玉緒 成立考 胆吹覚国文学論叢(龍谷大学) 38 1993-2 p. 40-59  
 17~37  
 19 南都仏教の語学的研究について 1 普殊を中心として 猿田知之 シオン短期大学研究紀要 33 1993-12 p. 61-90  
 20 (論説) 手爾葉大概抄 とその周辺 てには論の生長過程について 佐田智明  
 福岡大学人文論叢 25-3 1993-12 p. 1433-1459  
 21 詞 222D 詞 222E との関わり 223 詞通路 2234 222D 詞 天尔乎波のかゝる所の事 222E における扱い 佐田  
 藤宣男 福島大学教育学部論集 人文科学部門 54 1993-11 p. 1-8  
 22 名語記 222E の形容詞認識 辞書と歌学・連歌学の形容詞認識の齟齬 飯田晴巳  
 富士フェニックス論叢 1 1993-3 p. 77-109, 201  
 23 宣長一腹における 222D 自他 222E の系譜 腹が継承したものとその独自性 中村朱美  
 文真(鈴木腹学会) 18 1993-11 p. 37-61  
 24 本居宣長の文法整理 係結びの周辺 浅見徹 文林 27 1993-3 p. 31-51  
 25 契沖の声点注記について 坂本清恵 早稲田日本語研究 1 1993-3 p. 26-39  
 26 古事記 一 宣長・虚構された 古さ 222E 平安朝平仮名文字の視線 222D 日本 222E 山下久  
 夫 古代文学(古代文学会) 32 1993-3 p. 43-53  
 27 古代語文法を再考する 一 弱変化を単位に認めた人々 1 中山昌久  
 国文学 解釈と鑑賞(至文堂) 53-7 1993-7 p. 98-106  
 28 古典の窓 一 五十音の基底にあるもの 馬淵和夫  
 国語教室(大修館書店) 49 1993-6 p. 46-50  
 29 陳述論の経過とその意義 重見一行  
 高大国語教育(高知大学) 41 1993-12 p. 20-33  
 30 日本語研究者はいつ論文を書くか 222D 日本語研究文献目録・雑誌編 22E に見られる年齢  
 構造 荻野綱男 国語学(国語学会) 173 1993-6 p. 90-77, 73  
 31 (短信) 女性研究者の子育ての負担について 荻野綱男  
 国語学(国語学会) 174 1993-9 p. 64-65  
 32 松下文法に於ける副詞 枅岡正浩 国語研究(国学院大学) 56 1993-3 p. 49-58  
 33 明治三十七年の方言境界線 柴田武 図書(岩波書店) 529 1993-7 p. 38-40  
 34 根来司氏を悼む 福島邦道 日本語学(明治書院) 12-5 1993-5 p. 107-110  
 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100  
 Linguistic Geography. 一 広島女学院大学論集 43, 12 1993 p. 1-11  
 36 韓国※ 日本語学研究 ※※※※ ※※※※ 2 一 2 李漢※ 日本学報(韓国・日本學會) 30 1993-5 p. 109-125  
 37 世界の女性語・日本の女性語 2 一 2 日本における女性語研究

図 11-2 雑誌論文一覧 電算写植データ(続)

### 7.1.1.1 データ変換規則（刊行図書）

変換先のデータの構造は、

和文形式の場合、

文献番号 | 書名 | 著編者名 | 発行所 | 年月 | 判 | ページ数 | 定価 | 解説  
| 目次

であり、欧文形式の場合は、

文献番号 | 著編者名 | 書名 | 発行所 | 年月 | 判 | ページ数 | 定価 | 解説  
| 目次

である。| はフィールドの区切りを示す。

変換先のデータのフィールド別に、元のデータベースのフィールドと変換先のフィールド内のデータとの対応関係を書き換え規則的な形式で示す。

【】で囲まれたものは編集用データベースの項目に対応する。【】の中で【項目 (条件)】のように記載されたところの丸ガッコは、その項目の値が丸ガッコの条件を満たす必要があるということを表す。項目名についてカッコ () はそれがオプションであることを表す。項目 1 / 項目 2 という形は項目 1 あるいは項目 2 のいずれか一方を選択することを表す。“” のダブルクォーテーションで括られた表現は、括られた表現がそのままデータとして出力されることを表す。なお、スペースを表わすために [スペース] や [全角アキ] という表現を用いることがある。

#### (1) 和文形式の文献の場合

文献 → 文献番号 + 書名欄 + 著編者名 + 発行所  
+ 年月 + 判 + ページ数 + (定価) + (解説) + (目次)

##### (A) 文献番号

文献番号 → “{rec}” + 【文献番号】

文献番号はもとの編集用データベース中にはなく、複数のレコードをまとめる処理を含む出力用のデータ処理を経たデータに対して振るものなので、もとのデータベース上の番号ではない。

##### (B) 書名欄

書名欄→ 書名+ (副書名)+ (原著者名)+ (叢書名欄)  
+ (版次)+ (外国語書名)

書名→ 【書名】+ (書名巻次)

書名巻次→ 【書名巻次 (数字)】

書名巻次→ [全角スペース]+ 【書名巻次 (数字以外)】

副書名→ [全角スペース]+ 【副書名】+ (副書名巻次)

副書名巻次→ 【副書名巻次 (数字)】

副書名巻次→ [全角スペース]+ 【副書名巻次 (数字以外)】

原著者名→ “(”+ 【原著者名】+ “)”

叢書名欄→ “<”+ 叢書名+ (副叢書名欄)+ “>”

叢書名→ 【叢書名】+ 叢書名巻次

叢書名巻次→ 【叢書名巻次 (数字)】

叢書名巻次→ [全角スペース]+ 【叢書名巻次 (数字以外)】

副叢書名欄→ 副叢書名+ (副叢書名巻次)

副叢書名→ [全角スペース]+ 【副叢書名】

副叢書名巻次→ 【副叢書名巻次 (数字)】

副叢書名巻次→ [全角スペース]+ 【副叢書名巻次 (数字以外)】

版次→ 【版次】

外国語書名→ [全角スペース]+ “{I1}”+ 【外国語書名】+ “{I2}”

(C) 著編者名

著編者名→ “【 ( )”+ 【著編者名】+ “【 ) 】”

【 ( ), 【 ) 】は著編者用のカッコを表す。

(D) 発行所

発行所→ 【発行所】+ (発売所)

発売所→ “(”+ 【発売所】+ “)”

(E) 年月

発行年月→ 【発行年】+ “-”+ 【発行月】

(F) 判

判型→ 【判型】

(G) ページ数

ページ数→ (前付けページ)

+ 【本文ページ (冊, 丁が記入されていない)】

+ (後付けページ) + “p”

ページ数→ (前付けページ)

+ 【本文ページ (冊, 丁が記入されている)】

+ (後付けページ)

前付けページ→ 【前付けページ】+ “,”

後付けページ→ “,”+ 【後付けページ】

(H) 定価

定価→ 【定価】+ “円”

(I) 解説

解説→ “[”+ 【解説】+ “]”

(J) 目次

目次→ 【目次】

(2) 欧文文献の場合

文献→ 文献番号+著編者名+書名+発行所

+発行年月+判型+ページ数+ (定価) + (解説) + (目次)

(A) 文献番号

文献番号→ “{e\_rec}”+ 【文献番号】

文献番号はもとの編集用データベース中にはなく、複数のレコードをまとめる処理を含む出力用のデータ処理を経たデータに対して振るものなので、もとのデータベース上の番号ではない。

(B) 著編者名

著編者名→ 【著編者名】+ “:”

(C) 書名

書名欄→ 書名+ (副書名) + (原著者名) + (叢書名欄)

+ (版次) + “.”

書名 → 【書名】 + (書名巻次)

書名巻次 → [スペース] + 【書名巻次】

副書名 → “;” + 【副書名】 + (副書名巻次)

副書名巻次 → [スペース] + 【副書名巻次】

原著者名 → “(” + 【原著者名】 + “)”

叢書名欄 → “<” + 叢書名 + (副叢書名欄) + “>”

叢書名 → 【叢書名】 + (叢書名巻次)

叢書名巻次 → [スペース] + 【叢書名巻次】

副叢書名欄 → 副叢書名 + 副叢書名巻次

副叢書名 → [スペース] + 【副叢書名】

副叢書名巻次 → [スペース] + 【副叢書名巻次】

版次 → 【版次】

(D) 発行所

発行所欄 → “-” + (出版地欄) + 発行所欄 + (発売所欄)

出版地欄 → 出版地 1 欄 + (出版地 2 欄)

出版地 1 欄 → 【出版地 1】 + “,”

出版地 2 欄 → 【出版地 2】 + “,”

発行所欄 → 【発行所】

発売所欄 → “(” + 【発売所】 + “)”

(E) 発行年月

発行年月 → “,” + 【発行年】  
+ “-” + 【発行月】 + “.”

(F) 判

判型 → 【判型】

(G) ページ数

ページ数 → “,” + (前付けページ)  
+ 本文ページ + (後付けページ) + “.”

前付けページ→ 【前付けページ】+ “,”

本文ページ→ 【本文ページ】

後付けページ→ “,”+ 【後付けページ】

(H) 定価

定価→ 【定価】+ “円”

(I) 解説

解説→ “[”+ 【解説】+ “”]

(J) 目次

目次→ 【目次】

#### 7.1.1.2 データ変換規則（雑誌論文）

(1) 和文形式の論文の場合

文献→文献番号+題名+筆者名+誌名+巻号+発行年月+所在ページ

(A) 文献番号

文献番号→ “{rec}”+ 【文献番号】

(B) 題名

題名→ （特集・連載）+（欄名）+（中題）+標題+（副題）

特集・連載→ 【特集・連載】+ “—”

欄名→ “<”+ 【欄名】+ “>”

中題→ 【中題】+ [全角アキ]

標題→ 【標題】

副題→ [全角アキ]+ 【副題】

(C) 筆者名

筆者名→ “[”+ 【筆者名】+ “”]

(D) 誌名

誌名→ 【誌名】

(E) 巻号・通巻

巻号・通巻→ 【巻】+ “-”+ 【号】+ “,”

巻号・通巻→ 【通巻】+ “,”

(F) 発行年月

発行年月→ 【発行年】+ “-”+ 【発行月】

(G) 所在ページ

所在ページ→ 【所在ページ】

(2) 欧文形式の論文の場合

文献→ 文献番号+筆者名+題名+誌名+巻号+発行年月+所在ページ

(A) 文献番号

文献番号→ “{e-rec}”+ 【文献番号】

(B) 筆者名

筆者名→ 【筆者名】

(C) 題名

題名→ 【標題】+ (副題欄)

副題欄→ “;”+ 【副題】

(D) 誌名

誌名→ “-”+ {I1}+ 【誌名】+ {I2}

(E)巻号

巻号・通巻→ 巻号/通巻

巻号→ 【巻】+ “-” 【号】

通巻→ 【通巻】

巻号/通巻 巻号または通巻のいずれか

(F) 発行年月

発行年月→ 【発行月】+ [半角アキ]+ 【発行年】

(G) 所在ページ

所在ページ→ “,”+ 【所在ページ】

(注) 半角ピリオド, 半角カンマの後は 半角アキ

## 7.2 電算写植側の処理規則

上述の規則にしたがって整えられたデータは電算写植の処理に渡される。電算写植の側での処理は以下のようなものである。

- (1) 全体の組方に関する指定は組版時に挿入される。

これまで行って来ている、この国語年鑑のデータの処理に関して言えば、この点に関しては改めて情報をデータとして新たに渡すということはない。

- (2) 出力用にまとめたデータ上の項目の単位に対するレイアウトの制御。

刊行図書（和文，欧文共通）

- |             |      |           |         |
|-------------|------|-----------|---------|
| (a) 文献番号の体裁 | 1～2桁 | 1字取・右揃    | 折返し3字下げ |
|             | 3    | 1. 5字取・右揃 | 3. 5    |
|             | 4    | 2字取・右揃    | 4       |

- (b) 発行所，発行年月，判，ページ数，定価は一組として扱い行末揃えにする。

(c) 解説は本文よりポイントを下げる。改行して始める。

(d) 目次は本文よりポイントを下げる。改行して始める。

- (3) 項目によって自動的に挿入すれば済む記号等の付加。

(a) 欧文刊行図書の書名欄は全体をイタリックにする。

(b) 欧文文献の末尾にはピリオドを付加する。

- (4) フォントの指定

例えば，

文献番号の数字→ 半角数字（欧文）

- (5) 記号・約物に関する指定（刊行図書，雑誌論文一覧に共通）

(a) 【（ ），【（ ）】は著編者用のカッコを表す。次のような注の内容に変換される。ゴシック半角パーレンで括る，パーレンの前後2分アキ・閉パーの後ベタ。

(b) 半角スペース → 2分アキ

(c) 全角スペース → 全角アキ

- (d) 全角カッコ → 半角カッコ
- (e) 題名の()半角カッコ→アラビア数字と一緒にときはカッコ数字
- (f) 「」全角カギ → 全角・短い
- (g) ー全角ダッシュを2つ → ダッシュ
- (h) 全角ナカグロ →全角ナカグロ
- (i) “ ” 全角ダブルクォート → “ ” 全角ダブルクォート
- (j) 文脈の途中でイタリックにする場合その部分を {I1}, {I2} でくくる。

{I1} イタリックはじまり

{I2} イタリックおわり

- (k) 半角ピリオド, 半角カンマの後は 半角アキ (欧文の場合)

#### (6) 分類見だしの記号の展開

大分類, 中分類, 小分類の3段階の文献一覧に対する分類見だしが, それぞれ第1分類, 第2分類, 第3分類として下の表現でデータ中に入れてあるが, これを印刷上の形に展開する。

{bunrui-1} 分類タイトル

{bunrui-2} 分類タイトル

{bunrui-3} 分類タイトル

分類のタイトルの示しかたは次の通りであり, 対応する制御に変換する。

{bunrui-1} 第1分類

罫囲, 6字揃え・7字以上はベタ, 直後に表頭

ページの途中に入る時は直前1行アキ

{bunrui-2} 第2分類

ゴシック, 頭に‘◇’入る, 5字揃え・6字以上ベタ

{bunrui-3} 第3分類

ゴシック, パーレンで括る, 4字揃え・5字以上ベタ

#### (7) 特殊記号等の展開

アクサン記号や特殊文字, データ中に埋め込んだ個別的な文字の制御など

を対応する電算写植のコードに展開する。

例えばアクセント記号は、アクセント記号のつく文字の直後にアクセント記号に対応する記号を付加することによって表現しているが、これを電算写植による表現に展開する。例えば、次のような記号が使われている。

入力時の簡略記号 出力データ中の表現 アクセント記号

{/}	{&acute}	´
{^}	{&circ}	ˆ
{`}	{&grave}	`

なお、この出力データ中の表現の名付けは M. Bryan (1991) 中の実体名に合わせた。

その他、ルビの記号の展開などがある。

## 8. プログラム

上の処理を MS-DOS 上にインプリメントした。ほとんどは sed, awk などのツールによるフィルターとして作成してあり、これらをバッチファイルに組んで実行するようになっている。処理の仕様は書き換え規則式のルールとして設計した。ただし、プログラムはこのルールに従った処理をするものとしてスクリプトで書き下したものであり、ルールそのものをプログラムが解析して実行する処理系を作ったものではない。仕様の変更・修正などに柔軟に対処でき、仕様の保守を容易にするために、ルールベースで動作するプログラムの必要性を考えてきてはいるが、これは課題として残っている。

プログラム化した部分は刊行図書一覧、雑誌論文一覧、採図書発行所一覧、採録雑誌発行所一覧、受賞一覧、各学会・関係団体一覧、索引である。

## 9. データ処理上の問題

データ処理の過程における問題点として、以下のようなことが挙げられる。

## 9.1 データ作成

データの入力，編集に関する大きな問題として以下のような点がある。

### (1) 入力データの入力ミス，入力漏れの発見

校正はされているが，データのエラーは残っている。データ処理のやり直しを引き起こすことがよくある。

### (2) 後からの判断の変更

編集に関わる判断が途中で変わり，最終段階になってから，それに気がつくというようなことがある。

### (3) 入力規則の解釈のずれ

入力規則は，アルバイタも含めた全員が同じルールでやっているはずであるが，中には別の解釈を取ってしまうメンバーが出てくることがある。

### (4) 仕様の変更

システムが組み上がってきってから，仕様を変更したいという要求が出てくることがある。できるかぎり吸収するようにしても，難しい問題を引き起こすことがある。システムの柔軟性の問題でもある。

### (5) データの受け渡しの際の整合性

データの項目や順序などが変わっている場合，データの受け渡しでは整合がとれていないと処理ができないが，データの入力をしている側からは，そこが見過ごされてしまい，整合のとれないデータが流れてくることがある。

## 9.2 データの処理過程

(1) 現段階では，システムのメンテナンスがまだそれほど簡便でない。要求仕様の変更に対して簡単にかつ間違いなく，安全かつ容易に変更できるインターフェースはまだできてない。

(2) 印刷された最終データとこちらのシステムが出力したデータとの間で，差異の生じる可能性を完全にはコントロールできていない。

当然予想されることに対しては，できるかぎりうまく対応するように全体のシステムをさらに改善する必要がある。全体を柔軟にかつ簡単に保守でき

るようにすることが望まれる。

### 9.3 電算写植を利用する場合の問題点

最終的な出力は写植の出力の上で確認しなければならない。電算写植の世界とコンピュータの世界とは別の世界で、パソコンのプリントアウト上で確認しても、最終的には電算写植の段階が入るので、校正なしで出版という訳にはいかない。この時点で校正が入るので、データと出版物との間での情報の完全な一致が原理的に保証されない。校正の情報をもとのデータに反映させるプロセスを必要とする。これは自動的には行われないので、両者の間に相違が発生する可能性が生じる。最終出力の前にデータベース上のデータをきれいにしておく必要があるが、実際問題としては最終的な作業の段階で入力ミスがみつかったり、判断の変更があったりするものであり、このようなことが発生する。

## 10 多様な出力の形式のサポート

国語年鑑の機械化を開始したときの柱となる目的のひとつは、データベースにデータを蓄積することによるデータの利用の多面的な展開にあった。

データ表現の SGML 表現への変換、出力における TeX の利用、HTML への変換等が次の展開として考えられる。このシステムはこのような表現の利用が可能な形になっている。これによって、新たなメディアの上での文献情報の利用へ容易に接続ができ、文献情報の活用への基礎を築こうとするこの計画の目的が実現されるものと思う。又、現在は、特定の電算写植に依存している出力部分も、よりオープンな枠組の中に入れ直すことが可能になる。

## 11 おわりに

この計画は国語年鑑の編集を計算機化することによって、研究所における継続的な文献情報データベースの作成をシステムとして保証しようというものであった。現在、一通りの形がついた段階であり、システムとして見ると

さらに整備すべき点がある。出版という毎年の優先課題をこなしながらのシステム作成であり、システム開発としての都合よりは現実の出版スケジュールが先に立つというものであるが、そのような過程の中でシステムに関する要求事項も吸収していくという側面もあった。さらにシステムとしての改良やこの先への展開が必要なものである。

冒頭でも触れた「日本語研究文献目録 雑誌編」の出版後 10 年を経て、その後のデータの追加が望まれている。本報告のシステムが稼動以降は、データベースのデータが用意されるが、それ以前にはデータの欠落があることになる。しかし、雑誌論文については 1986 年版以降、本報告で示したシステムがカバーし始める 1991 年版まで、また、刊行図書については 1987 年版から 1993 年版までを、一部を除き電算写植データとして保管している。このデータをもとにデータベースとして整備し、文献データベースの欠落部分を補完する計画を来年度（1996 年度）より 3 年計画で開始するところである。これにより、1953 年以降の国語学関係の文献目録は、一貫してデータベースとして利用可能にすることができるようになる。

## 文 献

- (1) 国語学会・国立国語研究所編（1989）『フロッピー版 日本語研究文献目録 雑誌編』秀英出版
- (2) 佐竹秀雄他（1989）『国語学研究の動向の調査研究』昭和 63 年度文部省科学研究費補助金 一般研究（A）研究成果報告書
- (3) Martin Bryan 著，山崎俊一監訳，福島 誠訳（1991）『SGML 入門』アスキー出版局